

〔資料〕

妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』翻刻と解題（7・完）

寺津 麻理絵・関口 静雄

〔解題 7〕靈光寺誌一斑―櫻井密嚴撰述『靈光寺歴代住持拾掇録』抜書

千葉県市原市椎津の信貴山真言宗妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』（七卷七冊）は江戸湯島宝林山靈雲寺開山覚彦浄嚴の遺稿集で、正徳五年（一七一五）十二月に門弟の同寺第三世義璨慧曦が中心となって、同門の光濟・光猷・泰禅・光鑑・慧実らとともに書写浄書し、編纂したものである。

生涯の大半を浄嚴に随従した俗甥の惟宝蓮体が元禄十五年（一七〇二）十二月に撰述した『浄嚴大和尚行状記』に添えた『浄嚴大和尚靈徳記』に「平生ノ著述、詩歌行伝記碑銘等七卷アリ」というのは浄嚴自筆の『虚斎漫稿』をいうのであろう。この『虚斎漫稿』について行武善胤氏編『靈雲叢書解題』（大正五年十一月、丙午出版社）は「妙極堂遺稿の原本にして、文稿其の初期に属するものを滑稽集と云ひ、後に虚斎漫稿又は虚白道人集と呼べり。諸所に散在せる原書を見る」と記されているが、しかし三好龍肝氏編『真言靈雲寺派関係文献解題』（昭和五十一年十一月、国書刊行会）には『虚斎漫稿』の写本七冊が靈雲寺に所蔵されている旨の記載があるだけなので、行武氏がいう「諸所に散在せる原書」は三好氏が靈雲寺派関係の文献を博搜された折にはすでに散佚していたようである。

行武氏は『虚斎漫稿』を『妙極堂遺稿』の原本とされるが、編纂を主導した義璨慧曦が巻一卷頭に載せた「叙」によれば、浄嚴の遺稿を「編次」して「供吾党之遊目」する意図を懐いての編纂事業であった。『虚斎漫稿』がその重要資料であったことは疑いを入れないが、慧曦の「叙」ばかりでなく『妙極堂遺稿』七卷七冊に『虚斎漫稿』の書名が見出せないことから、『虚斎漫稿』収録外の「真筆の草本」（巻六奥書）や「稿本」も採録された

ものと思われる。

慧曦が「吾党の遊目に供す」意図をもって編纂された『妙極堂遺稿』は版行された形跡もないばかりか、その書写本の存在も知らない。加えて現在所蔵する妙高山靈光寺の境内境外への出入移動の形跡も見当たらない。そうしたことからすれば、『妙極堂遺稿』の編纂事業はあるいは靈光寺で行われたと考えても不当ではあるまい。靈光寺は湯島靈雲寺の初期の配下寺院であって、初期の歴代住持も浄嚴の直弟子やその血脈を強く曳くものが少なくない。浄嚴遺稿の編纂事業が行われるに十分な環境を備えていたのである。

さてそこで、靈光寺の歴代住持を紹介したい。それについて現住職櫻井密嚴師が長年月にわたり資料を博搜して歴代住持の事績をまとめられた『靈光寺歴代住持拾掇録』がある。平成二十五年三月二日に島根県斐伊川産の雁皮紙に自ら素稿を墨筆浄書したものであるが、櫻井師は九十六歳の今もこの『拾掇録』に寺誌を日々書き継いでおられる。お赦しを得て、同書を抜書きし、文体を改め若干の私意を加えて靈光寺の歴代住持についてその一斑を記しておきたい。なお、『行武解題』は行武善胤氏編『靈雲叢書解題』『靈簿』は靈光寺所蔵『過去靈簿』『血脈』は『過去靈簿』に付載の「血脈圖」の略称である。

※

靈光寺は歴代住持の記録によれば堀河天皇の寛治年間（一〇八七―一〇九四）の創建と伝える。しかしその後の記録は江戸幕府元禄年間までなく、約六百年間の空白がある。元禄期における最初の記録は元禄四年（一六九一）に起きた三谷村不動堂焼失事件を記した『不動堂焼失記録』（無年紀）

である。この中に如海なる住僧が「火の中に入りて失せぬ」とあって、その当時不動堂を守る住僧がいたことと、不動堂が靈光寺の前名称であったことが知れる。

不動堂焼失は村民の不始末によるものであったらしく、村から出された『不動堂再建請願』（無年紀）の中で、村民たちは、

一、今後は猥りに山中へ入らぬこと。
一、山中の樹木等を猥りに伐採して持ち帰らぬこと。
一、よって不動堂の再建を請願する。

一、再建成就の暁には、稻荷山・天神山は寺領地として献上する。等々を誓っている。これは不動堂焼失の轍を踏まぬことを意味するとともに、山林の樹木・枯枝・落葉が村人にとって貴重な生活資であったこと、不動堂が村民にとって信仰・行事のみならず生活全般に涉つての拠りどころであったことを伝えている。

寺伝によると、村民から『不動堂再建請願』を受けて元禄四年八月に創建されたばかりの江戸湯島靈雲寺に赴いて開基浄厳を尋ね、靈雲寺配下となることを願ひ出たのは如海と伝える。不動堂が靈雲寺末になることを寺社奉行に願ひ出た元禄五年（一六九二）八月二十五日付『奉願候口上書（控）』の差出人名もたしかに不動院如海と記されている。しかし靈雲寺が不動堂に与えた元禄五年八月五日付『允許状』は網維の戒琛慧光（浄厳門下四天王の一。靈雲二世・高崎大染寺赴住八年・奈良東大寺戒壇再興）と同網維慧球祥光（浄厳門下四天王の一。靈雲寺創建知事）の連署で、不動院戒純房宛に出されたものであって、それを証するように墓石や『靈簿』も当山靈光寺の開基を戒純等珠としている。

『不動堂焼失記録』に不動堂とともに焼死したと伝える如海は、寺伝では不動堂再建に尽力したといい、寺社奉行に差出した『奉願候口上書（控）』にもその名が残る。だがしかし如海の名は『靈簿』になく、墓石も存しないのである。まことに不思議なことである。

不動堂焼失とその再興を巡って疑問が残るが、ともあれ靈雲寺が不動堂に与えた元禄五年八月五日付『允許状』によって不動堂は靈光寺の新寺号を得、靈雲寺の配下寺院として新たな歴史を刻むことになる。

当山如法律開基 戒純等珠近住

元禄十五年（一七〇二）十二月十二日寂。

墓石 元靈光寺開基戒純等珠近住／（裏）元禄十五年十二月十二日

位牌 當山如法律開基戒純等珠近住（裏記なし）

靈簿 當山如法律開基戒純等珠近住／元禄十五年壬午十二月

* 墓地改修発掘時遺骨発見し得ず。

第二世 覺円証心比丘

元文三年（一七三八）九月十二日寂。法流二世。

墓石 元覺円証心比丘／（裏）當山第二世覺圓證心比丘／元文三年九月十二日

位牌 當寺第二世覺圓證心律師（裏記なし）

靈簿 當山第四世證心律師

元文三年戊午九月十二日寂／字魁圓、上総三谷、依止師慧曦和上、慧龍資／靈光寺法流第二世、僧夏七。

*『靈簿』は当山二世を空慧大徳とし、覺円証心を四世としている。『靈簿』二十二日条に、「當山第二代大空慧大徳／享保十四年（一七二九）己酉四月廿二日寂。／慈妙。開山和尚徒。於河内教興寺終果」とあり、同十二日条に「當山第四世證心律師」とあるがごとくである。しかし当山墓地に空慧の墓はなく、位牌も存しない。入寂地が河内の教興寺であったという理由だけではあるまい。空慧慈妙は靈雲開山浄厳大和尚の高足にして慧光・蓮体・祥光とともに嚴門の四天王と称された一人で、靈雲寺創築の時には慧光・祥光とともに知事として重要な位置にいた。久留米東林寺の開創に係わり、河内教興寺とも関係が深い。こうした本山の実力者が新生靈光寺の基礎作りの指導に第一世戒純近住の後見人として出向せられたものと考えられる。当山一世戒純・二世慧龍の両人は上臈空慧慈妙に篤厚の尊敬礼遇を奉じたはずであって、それは法名に「大徳」の尊称を冠していることから明らかである。こうした因縁から『靈簿』に慈妙比丘を第二世と記録したものと推量される。

『靈簿』は四世とするが、墓石に「當山第二世覺圓證心比丘」と刻し、位牌に「當寺第二世覺圓證心律師」とあることから、覺円証心が当山二世

であることは疑いを入れない。しかし証心は『靈簿』に「依止師慧曦和尚、慧龍資、靈光寺法流第二世」とあるように三世祥雲慧龍の弟子である。慧龍は『靈簿』に「慧光和尚徒」とあり、位牌に「當寺法流始祖」とある。弟子が師を措いて当山住持職に就いた理由は明らかではないが、三世慧龍比丘は享保十六年（一七三二）四月三日寂、二世証心は元文三年（一七三三）九月十二日寂と伝える。慧龍寂後の七年間をあるいは証心が靈光寺護持に当たっていたのではないかと推量される。なお墓地改修発掘時、椎の太木を抜根して調査するも、証心の遺骨は発見できなかった。

三世 祥雲慧龍比丘 法流始祖

享保十六年（一七三二）四月三日寂。

墓石 引取てあり

享保十六年辛亥年四月三日／（裏）當山中興祥雲慧龍和尚

厨子入位牌 當山中興祥雲慧龍和尚

享保十六年辛亥四月三日入寂／當寺法流始祖

靈簿 當山第三代慧龍大徳

享保十六年辛亥四月三日／字祥雲、総州三谷、慧光和尚徒。

* 靈雲二世慧光和尚は元禄八年（一六九五）高崎松平右京殿輝貞公の命により高崎城下大染寺に住し、元禄十五年（一七〇二）六月師浄厳大和尚の遷化によって靈雲寺に戻り、その二週間後の七月十一日に靈雲第二世の台命を受けた。慧光の高崎移住に随従した十二人のうちに義璨・慧曦・円鏡・快応（円通寺）・覚円証心（靈光寺）があり、慧龍も日を改めて慧光和尚の随員として大染寺に住したという（行武解題）。慧光の大染寺住持は八年間に及ぶが、おそらく証心・慧龍両比丘も常随したのである。のちに慧龍は松平右京公から靈光寺本尊不動明王尊像を賜ったが、その縁由はこの高崎在住時に生じたものと考えられる。証心・慧龍両比丘にとって高崎在住の持つ意義は少なくない。

『靈簿』に二世と記される慈妙大徳の靈光寺在住はさほど長期に渉るものではなかっただろう。一世戒純が靈雲配下の「允許状」を受けたのが元禄五年（一六九二）であり、示寂が同十五年であるから、その十年間のう

ちの前半期の一時期であったと思われる。第二世証心比丘の晋山は、証心が慧光和尚に八年間随従していたとすれば元禄十五年の戒純示寂後であるはずで、途中で江戸に戻ったとすれば、慈妙と交替して戒純を援け、師僧慧龍から寺務管掌を一任されていたものと思われる。三世慧龍の当山常住統理は元禄十五年以降であろう。慧龍は元禄十四年に惟宝蓮体など二十二比丘とともに問答印信を授かっており、またこの年慈妙が河内教興寺で遷化し、翌十五年六月には浄厳和尚が遷化しているから、こうした事案が一段落した後のことであったと推量される。

なお、明和五年（一七六八）十一月、武州熊谷養平寺の鑊妙宝胃比丘が輯した『靈光寺什物帳』（二冊）の序文の一節に、「祥雲、妙（慈妙）に代りて専ら中興の力を振ふ。弟子覺圓其の遺囑を受く。圓、寂して後、覺龍なる者、放蕩淫行、諸有半ば失す。且つ劫盜（強盜）の爲に掠奪せらる」（原漢文）とある。この一文によれば二世覚円証心の示寂後、覺龍なる僧が留守居役をしていたことが判る。しかし放蕩者で果ては強盜の難に遇ったという。覺龍が誰の弟子か特定する資料を見出せないが、留守居を役僧に任せていた一時期のあったことが知られる。

第四世 本瑞光雲比丘

宝暦九年（一七五九）十一月十五日寂。法流三世。

墓石無縫塔 靈光第四世光雲大徳／（裏台座）寶暦九己卯十一月十五日

位牌（大） 當寺第四世光雲大徳

寶暦九己卯十一月十五日

（小） 本瑞光雲大徳

靈光第四世宝暦九己年十一月有五日

靈簿 當山第四世本瑞光雲苾芻

慧光和尚資／寶暦九己卯十一月十五日

血脈 光雲苾芻

慧光之資、依止慧曦和尚、法臘十七、世壽四十九、當寺再發、法流第三世。

* 本瑞光雲は靈雲二世慧光の弟子であるが、靈雲三世慧曦大和尚より寛保元年（一七四一）三十一歳の時に秘部法要を、延享二年（一七四五）三十五

歳の時に印信大巻を伝授されている（行武解題）。また饒妙宝胄『靈光寺什物帳』の序文の一節に、「就中、先に祥雲あり。後に本瑞あり。是の二師の靈光寺に於ける、勤めたりと謂ひつべし。亦、寄附するところ、二師の右に出る者なし」（原漢文）とある。靈光寺の中興は三世慧龍・四世本瑞によって果たされたのである。とくに本堂を新築し、宮殿を奉安したのは本瑞であって、その業績は顕著である。因みに本堂棟札によれば、本堂の新築始工は宝暦四年（一七五四）二月四日で、同七年（一七五七）正月十四日には本堂完成鎮坦法楽を執行し、次いで同十一月には宮殿の造営を木村義忠（工匠であろう）に命じ、これを宝暦八年（一七五八）五月十四日に竣工奉安している。本瑞は聖教・古文書の書写蒐集にも熱心で、本瑞が当寺に寄付した文書、書写した次第書が大量に襲蔵されている。世寿四十九という。惜しみて余りある早世である。

第五世 慶巖廓照比丘

宝暦十二年（一七六二）十一月二十八日寂。法流四世。在職二年。

墓石五輪塔 廓照大徳

位牌 慶巖廓照大徳／（裏）寶暦十二年壬午十一月二十八日

靈簿 當山第五世慶岩廓照大徳

寶暦十二年壬午二十八日寂／住寺四年、世壽六十五歳、住寺四年、法臘十四夏。

*師範は俊長法印（享保十四年へ一七二九）二月四日寂。生国等不詳。本堂完成鎮坦法楽の宝暦七年には六十歳であるが、建築中に在住していたとすれば本瑞光雲の補佐役として重鎮だったと思われる。

第六世 懷賢光英比丘

宝暦十四年（明和元年一七六四）正月二十七日寂。法流五世。在職二年。

墓石無縫塔 懷懷賢光英苾芻

寶暦十四甲申歳／正月二十七日

位牌 當山第六世光英大徳

寶暦十四甲申正月二十七日

靈簿 當山第六世懷賢光英苾芻

宝暦十四甲申歳正月、世壽四十歳、住持二年、法臘二夏。

*師範、生国不詳。本堂落慶鎮坦法楽の年は三十三歳である。廓照と同様、本瑞師と寢食をともにしていたとすれば、随行承仕として活躍したはずである。光英示寂の宝暦十四年（一七六四）から明和五年（一七六八）までの五年間、当寺は住職が不在だった。宝胄輯『靈光寺什物帳』の序文の一節に、「瑞（四世本瑞光雲）、岩（五世慶巖廓照）に譲る。岩、賢（六世懷賢光英）に譲る。賢、寂して帰する所無く、明和建元（明和と改元、吾（宝胄）が師高岩（八世高巖教恵）ここに兼任す。体老ひ、且つ海嶠懸隔せるを以て職を致して止む。凡そ八世なり。（中略）胄（宝胄）、師に代りて留守すること三年。曬書（晒、蟲干）の日、躬ら什物の駁雜にして見別し、易からざるを慮って古記数冊子を採輯す。（中略）明和戊子（一七六八）十一月既望、武の西郊原島（現、熊谷市内）沙門比丘宝胄題」（原漢文）とあって、七世慧旭真戒についての記載はないが、光英示寂後は八世となる養平寺高岩教恵比丘が兼務していたのである。しかし高岩は老倅遠隔を理由に弟子の宝胄をして靈光寺を留守居せしめたのである。宝胄はこの間、什物雜駁を整理して一書にまとめ、明和五年十一月二十七日『靈簿』、慧旭真戒比丘が七世として晋住したのを機に原島へ帰ったものと思われる。

第七世 慧旭真戒比丘

明和六年（一七六九）十月七日寂。法流六世。在職十一ヵ月。

墓石五輪塔 慧旭真戒苾芻／（裏）明和己丑十月初七日

位牌 慧旭真戒苾芻

明和六年丑天十月七日

靈簿 慧旭真戒比丘

明和五戊子年十一月二十七日入院、明和六年己丑十月七日寂。當寺住職二年、武州入間郡水子村産、世寿五十六、法臘五夏。

*『靈簿』に「当寺住職二年」とあるが、それは明和五年・六年の二ヵ年間の意にして、実質わずか十一ヵ月にしての遷化である。『靈簿』によると真戒の弟子に海玉妙光がある。妙光は武州比企郡川島領老袋田乗坊の開

基となった人で、安永六年（一七七七）三月四日、二十九歳にして早世している。

第八世 高巖教惠比丘

享和三年（一八〇三）寂。世寿八十八。法流七世。

*当山八世については、その石塔・位牌が見出せず、わずかに『靈簿』の法流世代項に、法流六世当山七世の慧旭真戒の次に「高巖教惠律師」とその名が記されていることから法流七世と認められる。また宝冢輯『什物帳』の序文に高巖を高岩と記して当山八世とする記述があり、また当山墓地に真曉知安近住 明和年 甲申十月廿九日

第八世高岩弟子

と刻した墓石があることから、当山八世が高巖教惠比丘であったことは疑いを入れない。なお当寺保管『本末人別調帳』によると、高巖は寛政元年（一七八九）七四歳で武州熊谷養平寺に隠居している。墓は養平寺にあり、墓誌は寂年を享和三年（一八〇三）と刻んでいる。右の『本末寺人別調帳』から八十八歳の閉眼であると知れる。高巖は高岩とも表記されるが、今は『靈簿』の高巖を採った。

第九世 義天智燈比丘

天明四年六月二日（一七八四）寂。在職十五年

墓石角塔 靈光第九世義天智燈苾芻

（裏）座武藏國足立郡北具戸村／今西氏天明四甲辰六月二日寂

位牌 義天智燈大徳

天明四年甲辰年六月二日寂

靈簿 當山第九世義天智燈苾芻

世壽四十五、僧夏一歳

*師範・依止師等不詳。七世真戒比丘寂後、真戒比丘の弟子海玉ならびに宝冢逗留のころから同宿していたものか不明であるが、八世高巖兼住の期間を除き七世寂年を基とすれば在職十五年と判断される。

第十世 智教順戒比丘

文化十一年（一八一四）十一月二十三日寂。

墓石角塔 靈光第十世智教順戒苾芻／（裏）座武藏國埼玉郡多聞寺郷橋本氏

位牌 智教順戒苾芻

靈簿 当山第十世智教順戒苾芻

上野豊岡寶幢庵主也。従其当山来住至事數年。鐘經藏建立。後藏波高福庵隱居。

*『本末寺人別調査表』によれば、智教は寛政元年（一七八九）六十一歳であった。天明四年（一七八四）九世智燈寂後、直ちに晋住したとすれば時に五十六歳、文化十一年八十六歳遷化まで在職三十年に及ぶ。当寺蔵『賽銭箱記録』によれば、寛政三年（一七九一）には正月二十八日より二月二十日まで本尊を開扉して貴賤信徒を教化し、寛政五年（一七九三）には正月吉祥日に両祖師壇を修造しており、梵鐘・経蔵を建立後は藏波の高福庵（現、弘福院）に隠居した。

なお、梵鐘をめぐって『銅鐘銘註釈并問答』一冊が当山に伝わる。それによると、寛政六年（一七九四）、梵鐘鑄造にあたって智教は銘文を本寺靈雲寺七世靈麟に乞うたところ、靈麟はこれを大和尚智明（のち靈雲八世）に代撰せしめた。稿成って、智教は書を鏤妙宝冢に乞うたところ、宝冢は「撰銘に不備あり」と勝手に修正を加えた。これを知った智明は忿然とし、「衆主（靈麟）の命を奉って序銘を代撰するに、予に問はずして猥りに削るとは何事ぞ。師（宝冢）の預るところに非ず。何を以て之を削るか」と問詰論争となったという。時に智教六十六、靈麟六十四、智明五十七、宝冢六十三歳だった。『銅鐘銘註釈并問答』の著者は不明だが、裏表紙には「火中の本、最秘密、不許他見。雲光某甲」と後人の書付がある。

第十一世 文源普貫比丘

文政十三年（一八三〇）五月二十四日寂。在職十六年。

墓石 正面欠損／（横）文政十三年庚寅五月二十四日入滅

位牌 文源普貫苾芻

文政十三年庚寅五月廿四日當山十一世

靈簿 靈光第十一世文源普貫苾芻

文政十三年五月二十四日寂。靈雲八世智明和尚資、僧夏廿七、世壽七十才。

* 靈雲八世智明の弟子に文源・秀詮・法願・恭道がある。十一世文源普貫以下は智明の弟子が当山を継承している。

第十二世 秀詮通明比丘

嘉永六年（一八五三）十二月二十日寂。在職二十三年。

墓石角塔 秀詮通（以下文字崩落）

嘉永五年壬子十二月二十日

位牌 秀詮通明苾芻

靈光寺第十二世／嘉永六年十二月二十日

靈簿 當寺第十二世秀詮通明苾芻

嘉永六年癸丑十二月二十日寂。以妙辨記之。

* 寂年が墓石と位牌・『靈簿』に相違がある。今は墓塔より先に製作されたと考えられる位牌・『靈簿』を採る。秀詮は靈雲八世智明門下で、当山十四世智龍入寺の師である。

第十三世 法願智仙比丘

安政五年（一八五八）六月一日寂。在職五年。

墓石角塔 法願智仙苾芻

當寺十三世本山綱維五大院主

僧夏十五 世壽五十四

位牌 法願智仙苾芻

當寺第十三世 安政五年六月朔日

靈簿 當寺第十三世法願智仙苾芻

安政五年戊午六月一日寂。僧夏十五、五十四歳。本山綱維。五大院主。

*『行武解題』によると、法願は文化二年（一八〇五）武蔵国埼玉郡麥塚村に生まれ、靈雲八世智明のもとに入室したが、九歳のとき智明が遷化したので、後に靈雲十一世を継ぐ智定の弟子となった。師智定の信任篤く靈雲

寺知事を勤め、後に武州児玉郡仁手（現、本庄市仁手）の最法寺第四世を継いだ。最法寺に没し、そこに葬られたという。

なお、最法寺は荒廃甚だしいが、法願の墓石無縫塔は現存し、

当寺第四世法願智仙苾芻

安政五年戊午六月朔日

と刻まれている。法願の法兄に靈雲寺塔頭蓮光院主となった等空があり、同時期に法願は五大院主であった。門下に智鑑・宝仙がいる。

第十四世 妙辯智龍比丘

明治三十八年（一九〇五）一月六日寂。

墓石角塔 妙辯智龍

（右）明治三十八年一月六日寂

（左）靈光寺第十四世新四國發願者 智龍大和尚

位牌 靈雲第十四世智龍大和尚（裏記なし）

靈簿 當山第十四世智龍妙辨和尚

明治三十八年乙巳一月六日寂。七十三歳。靈雲寺十四世。

*『行武解題』によれば、智龍は当山十二世秀詮比丘の門に入り、靈雲十一世智定和尚を拝して得度、秀詮寂後は智定に依止するという。当山の記録によれば、天保九年（一八三八）六歳時に養母と死別、同十五年（一八四四）十二歳時に養父喜三郎と死別、弘化三年（一八四六）十四歳時に高恩の老女と死別、翌弘化四年十五歳時に智定和尚を拝して得度した。その翌月嚴父と死別している。

安政五年（一八五八）六月に十三世法願智仙が入寂しているから、智龍は二十六歳で当山十四世を継いだと思われる。その後、明治十三年（一八八〇）二月四十七歳にして本寺靈雲寺副住職として転住し、明治十六年（一八八三）五十一歳の時、十三世開塔和尚の退隱を承けて靈雲十四世となり、明治三十四年（一九〇一）後董を正行に托し、六十八歳で退隱した。墓塔に「新四國發願者」とあるが、当山に新四國八十八カ所を開設するための勧募は明治三十四年に始まり、同三十六年（一九〇三）に開場された。しかし『勧募帳』『新四國八十八カ所開場碑文』はともに当山十六世慧海

教嚴名義であって智龍の名はない。

第十五世 明融真理比丘

明治二十四年（一八九一）十二月三十一日寂。在職十一年。

墓石角塔 當山十五世 明融真理苾芻

明治二十四年十二月三十一日

位牌 明融真理苾芻

當山第十五世／明治二十四年十二月三十一日

靈簿 記載なし

* 當山に現存する『至道先生碑』（石摺文）の一節に、

藥師庵第二世至道宝乘、雲川と号す。智龍により薙髮受戒、具足戒比丘となる。（中略）文久二年九月六日化す。年七十三。先師塋の側に葬る。法資二人あり。甲は先寂、乙は真理。法灯当庵を續ぐ。弟子等勦力して建立す。

時元治元年龍集甲子季春群弟子立石（原漢文）

とあって、至道比丘が當山十四世智龍から薙髮受戒した法資であり、その至道宝乘の法資の一人が明融真理であったことが知られる。おそらく真理はこうした法縁によって智龍の後董となったものと思われる。

當寺に真理自筆の「転住願扣」三通が伝わる。その中の一通は

東京府下

埼玉縣下平民僧

東京湯島新花町

武藏國横見郡和名村六十五番地居住

眞言宗古義派

同國 同郡 同村

中本寺

正傳寺住職

靈雲寺末

試補 小澤真理

明治十三年二月 三十九年一ヶ月

右ノ者上總國市原郡椎津村靈雲寺末寺靈光寺住職高山智龍儀東京湯島新花町靈雲寺^ニ副住職^ニ轉住^ニ付後住御申付被下度此段奉願候 以上

明治十三年二月八日

上總國市原郡椎津村

靈光寺寺係惣代

島崎喜左衛門 印
同 鈴木半蔵 印
戸長 齋藤善兵衛 印

千葉縣令 柴原和殿

というもので、靈雲寺副住職として転任した靈光寺住職高山智龍の後董として正伝寺からの転住を千葉縣令に願ひ出たのである。なお、他二通によって真理の履歴を一瞥すると、「真理は武藏國足立郡下谷津村農業小沢太四郎の次男で、嘉永六年（一八五三）六月二十七日、湯島靈雲寺において十二歳で得度。以来慶応二年（一八六六）まで十二年余を同寺で学修し、明治三年（一八七〇）三月、埼玉縣横見郡和名村正伝寺住職となった。同六年（一八七三）三十二歳のとき教導試補位を受け、同十三年（一八八〇）三十九歳で靈光寺住職となった」と知られる。明融真理苾芻が性情端正にして条理実直丹然なる人であったことは、什物等とくに画軸の修理がよくなされていることから窺い知られる。

第十六世 慧海教嚴比丘

昭和二十二年（一九四七）二月十五日寂。在職三十年。

墓石 なし。十七世自宝が歴代住持之塔を建立し地下に埋藏したため固有墓はない。よって平成二十二年、十九世密嚴が歴代住持墓地を大改修し、

新たに無縫塔を建立供養した。

位牌 當山第十六世慧戒教嚴大和尚

昭和二十二年／二月十五日

靈簿 靈雲第十九世慧戒教嚴大和尚

明治十年丁丑生。昭和二十二年丁亥二月十五日寂。世壽七十歳。於妙極院

閉眼。

位牌「當山第十六世慧戒教嚴大和尚」。當山第十六世。本堂修復大業成就ス。

靈雲貫主居職十八年。智龍和尚資也。法弟自宝・定光。度僧数人アルモ皆夭折。

教嚴自筆仏画ニ慧海トアリ。海ガ正シキカ。弟子十九世密嚴記之。

*慧海教厳は明治十年（一八七七）出生。当山十四世靈雲十四世妙辯智龍の弟子で、明治三十四年（一九〇一）智龍が靈雲寺を退隠したのを機に教厳は二十四歳で当山十六世位に就き、明治三十六年（一九〇三）新四国八十八カ所を開創し、明治三十八年（一九〇五）四月には哲学館大学を卒業した。大正十年（一九二一）懸崖崩落により本堂が大被害を受け、さらに翌々年九月一日の関東大震災で壊滅した本堂を、わずか三年後の大正十五年（一九二六）十月三十日に修復落成している。資金不足で工事はしばしば停滞したが、教厳に心を寄せた篤信の富豪薩摩治平衛より金五百円の寄贈を受けて成就したのであった。教厳は治平衛の懇志を感謝して「予が弱志を励ます」と棟札に記している。

昭和六年（一九三一）教厳は五十四歳にして靈雲寺十九世位に就くと当山を法弟智璋自宝に後董せしめ、昭和九年（一九三四）三月には最後の弟子となる秀雄密厳が靈雲寺に入寺した。同年四月、弘法大師一千年御遠忌大法会・結縁灌頂・受明灌頂・伝法灌頂儀を一山総出で厳修し、その大導師を勤めた。太平洋戦争後の昭和二十一年（一九四六）弟子密厳を法弟定光の養子とし、大磯地福寺の後住とした。同二十二年二月十五日早朝、妙極院において閉眼。七十歳。翌日茶毘、後日、密厳が当山歴代住持墓地に葬した。教厳は寡黙で毅然として静謐。かつ質素にして驕らず、白衣・麻木綿の縞褌のほか俗衣を一切持たなかった。生涯を律に徹し、律僧の範たる傑僧であった。

第十七世 智璋自宝比丘

昭和四十五年（一九七〇）八月十七日寂。在職三十九年。

墓石 當山十七世自寶大和尚（十九世密厳改削して新建す）

位牌 當山第十七世智璋自寶大和尚

昭和四十五年／八月十七日

（裏）姓高山幼名金子磯治／世壽八十六歳

靈簿 靈雲二十世當山十七世自寶智璋大和尚

昭和四十五庚戌八月十七日閉眼。世壽八十六歳。智龍和上資。高山家継

承。靈雲實主居職二十三年。當山十六世教厳和尚の法弟なり。十九世

密厳記之

*当山所蔵の戸籍抄本・自筆履歴書等によると、自宝は明治十七年（一八八四）一月十七日、埼玉県北足立郡戸田村の金子栄輔・ヒサの五男として出生、同二十六年（一八九三）一月二十五日湯島靈雲寺で得度、同二十七年二月八日靈雲寺道場において十四世高山智龍和尚に就いて剃染し、同三十一（一八九八）年五月新安流により成満、九月に沙弥戒を受け、十一月には靈雲寺において智龍和尚に就て伝法灌頂を受けた。明治三十八（一九〇五）年より一年間河内延命寺上田照遍和尚に随身して自他宗学を修学、同四十一年十一月には靈雲寺正行和尚を証明師として自誓得戒し、大正元年（一九一二）十月には正行和尚に就て新安流皆伝を得た。この間、明治二十二年（一八八九）六月東京府第二号支所下中学林全科卒業、同三十五年三月高野山聯合大学第一学年卒業、同四十一年三月東京航海学校中学部卒業、同四十五年七月早稲田大学専門部政治経済科を卒業し、さらに大正六（一九一七）年十月明治大学専門部法律科卒業、同九年十二月、検定試験により高野山大学本科全科卒業した。多彩な学歴を有し、大正九年四月から十二年五月まで聯合法務所内財産局参事を拝命している。

自宝は十七歳の明治三十四年（一九〇一）五月、当山十四世・靈雲十四世を経歴した師の高山智龍と養子縁組し、同三十八年一月智龍の死亡により家督を相続した。自宝の僧侶としては異色の経歴は智龍との養子縁組とその家督を相続したことが深く関係しているように思われる。智龍遷化前年の明治三十六年には十九歳で埼玉県川島町の円通寺住職位に就いていたようであり、大正八年一月には栃木県河内郡の黄梅寺を兼帯し、その後昭和十二年（一九三七）十一月法兄浜中教厳和尚の後董として弘福院・靈光寺の主管者となり、和上遷化後には靈雲寺二十世貫主となった。五カ寺の住職を経歴したが、しかし遂にいずれの山内に起居することなく、生涯を巢鴨の寓居で過し、そこで寂寞と逝った。

第十八世 正彦近住

昭和五十二年（一九七七）七月二十一日寂、六十五歳。在職七年。

墓石 當山十八世正彦近住（十七世自宝墓石に併列刻字）

位牌 當山十八世正彦近住

靈簿 十八世正彦近住

昭和五十二年七月二十一日東京にて死す。十七世自宝ノ息。得度ノミニテ未受戒、未灌頂。十九世密嚴記之

*正彦近住は高山自宝・ていの長男として大正元年（一九一二年）九月十一日出生。東京帝国大学英文学科卒。卒業後は東京都内の私立中学校に勤務したが長くは続かず、終戦後は語学力を生かしてアメリカや東南アジア諸国の大衆音楽の解説を業として放送に携わり一時は時の人となったが、しかしこれも長くは続かなかった。晩年は靈雲寺経営の湯島幼稚園々長となったが園長室に出勤したことはなく、東京練馬に住み、当山管理は寺世話人の藤谷良助に委任したままで、当山との往来は七年間の在職中わずか二度であったという。なお当山十七世自宝・十八世正彦父子は二代にわたって寺有地を大量に処分している。

第十九世 秀雄密嚴

当山現住秀雄密嚴は大正八年（一九一九年）六月二十九日埼玉県北足立郡桶川町に高橋源兵衛・ますの四姉四男の末男として出生。昭和九年（一九三四）二月靈雲寺十九世浜中教嚴の室に入り、同年八月得度。同十年より三夏にわたり靈雲寺において灌頂を受け、以来高野山において中院流、同二十一年（一九四六）十一月小田原勝福寺において鈴木智辯に就いて入壇（中院流）、同三十四年十一月靈雲寺において高山自宝に就いて入壇（新安流）、同五十一年六月靈雲寺において高見寛恭に就いて入壇（古安流）、同六十二年（一九八六）七月教主王護国寺において加藤有雄について入壇（西院流）等々諸流の奥義を伝授されている。その間、昭和十三年（一九三八）三月高野山中学卒業、同十六年三月東洋大学専門部国漢学科卒業、同十八年九月東洋大学文学部国文学科を卒業し、同二十二年より平塚市立女学校に奉職し、学制改革・県立移管により神奈川県立高浜高等学校に同五十六年（一九八一）三月まで勤務した。

一方この間、円通寺（埼玉県川島町）・地福寺（神奈川県大磯町）・靈光寺（千葉県市原市）・弘福院（千葉県袖ヶ浦市）の寺務一切を統理し、昭和二十

二年高山自宝より円通寺を承継、同二十八年先師桜井定光遷化により地福寺を継承、同五十三年高山正彦死亡により靈光寺・弘福院を継承した。平成十三年（二〇〇二）には教主王護国寺・東寺真言宗の推挙により定額住に列せられ、翌十四年後七日御修法に法務法印大阿闍梨仁和寺大僧正堀智範の供僧として列座、息災護摩供を配役した。

密嚴は晋山以来、荒廃した当山靈光寺および円通寺・弘福院の伽藍復興整備に精魂を傾け続ける一方、靈光寺襲藏の聖教典籍古文書の整理保存など文化的方面にも意を注いでいる。

（関口静雄）

〔追記〕

小稿作成について次の諸氏の助力を得た。御礼申上げる。

・岩城佑希（大学院生活機構研究科生活文化研究専攻二年）・岡本夏奈（同一年）
・恩田寛子（歴史文化学科四年）・三枝桃子（同）・佐野梨咲（同）
・鈴木香菜（同三年）・鈴木陽香（同）・高橋花乃（同）

【翻刻凡例】

- 1 妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』（写本、全七冊）の第七冊目卷之七を翻刻する。渋茶色紙表紙、袋綴装、縦二七九mm・横一八五mm。
- 2 原則として通行の文字表記を用いて翻刻した。
- 3 行取・清濁・誤字・宛字は底本のままに翻刻し、改丁は「⑦01オのように示した。
- 4 踊字・繰返符号は二字分までは底本のままとし、それ以上は通行の表記に改めた。
- 5 訂正・削除・後補等の指示がある時はそれに従い、後補挿入した文字には、「妙」のように傍点を付した。
- 6 韻文には適宜空格を施した。
- 7 判読不能の箇所は□で示した。



㊦ 表表紙

妙極堂遺稿卷之七

侍者僧某等編錄

天和二壬戌年 行年四十四

播州印南郡報恩寺記

欽^テ贊^ル古典當寺則祕密上乘興隆之金地觀音大聖
降臨之寶刹也長川東流^ニ自表^シ法澤之不竭^{コトヲ}高峯北
峙誠是仁德之厚積^{ナリ}碧沼之湛^ル一方也芙蕖爭彩^ヲ忽
錯八德之瑤池綠樹之匝四面也枝條布陰^ヲ宛似^ニ七
重之寶樹主賓討論是則大教之宣傳士男化育惟
藉靈神之衛護古殿闕焉宵傳鈴磬之韻梵宇廓余

妙極堂遺稿卷之七

侍者僧某等編錄

天和二壬戌年 行年四十四

播州印南郡報恩寺記

欽^テ贊^ル古典當寺則祕密上乘興隆之金地觀音大聖
降臨之寶刹也長川東流^ニ自表^シ法澤之不竭^{コトヲ}高峯北
峙誠是仁德之厚積^{ナリ}碧沼之湛^ル一方也芙蕖爭彩^ヲ忽
錯八德之瑤池綠樹之匝四面也枝條布陰^ヲ宛似^ニ七
重之寶樹主賓討論是則大教之宣傳士男化育惟
藉靈神之衛護古殿闕焉宵傳鈴磬之韻梵宇廓余

(白丁)

ㄥ ⑦表表紙見返

ㄥ ⑦01才

午聽唄讚之唱戒珠鏡明盪三有之穢濁法鼓雷鳴
導四來之徒侶俯垂慈愍于羣黎仰答嶽瀆于上帝
報恩之為号也誠宜乎哉初元明皇帝統御寰寓之
日和銅六年癸丑慈心上人創建紺宇衆庶子來不
日畢功即奉行基大德所手刻瑠璃光王佛像剎樂
像法轉時衆生救拔業障所纏有情又加不動大明
王毗沙門大天蠲除障孽饒益福樂復請大辨才天
為其鎮衛自後歷五百餘歲建治元年乙亥後宇多
天皇即位即請寺主證賢上人受菩薩大戒渴仰恭
謹則委以修三密瑜伽祈四海康平賢則使佛工運

慶及湛慶刻十一面觀自在菩薩并四大天王代醫
王善逝也又請若一王子權現以為山鎮平莊民庶
仰崇而為氏神敕賜印南山号後將軍義滿公_{号鹿園院}
親書扁之同年中天皇下敕施齋田及禁屠殺_{其宣旨文}
永正二年_{回祿遭災}花園院正和五年丙辰下宣以平村中島
田圃施當寺而為永世齋資文保元年丁巳又有勅
禁釣弋後醍醐帝建武之年將軍兵部卿親王有台
旨點檢料田使無濫妨又下教書使禱平治亂兵曆
應庚辰將軍尊氏下嚴命遏止兇黨康永癸未赤松
氏義則承台旨制漁捕寄墾田觀應三年壬辰將軍

午聽唄讚之唱戒珠鏡明盪三有之穢濁法鼓雷鳴
導四來之徒侶俯垂慈愍于羣黎仰答嶽瀆于上帝
報恩之為号也誠宜乎哉初元明皇帝統御寰寓之
日和銅六年癸丑慈心上人創建紺宇衆庶子來不
日畢功即奉行基大德所手刻瑠璃光王佛像剎樂
像法轉時衆生救拔業障所纏有情又加不動大明
王毘沙門大天蠲除障孽饒益福樂復請大辨才天
為其鎮衛自後歷五百餘歲建治元年乙亥後宇多
天皇即位即請寺主證賢上人受菩薩大戒渴仰恭
謹則委以修三密瑜伽祈四海康平賢則使佛工運

慶及湛慶刻十一面觀自在菩薩并四大天王代醫
王善逝也又請若一王子權現以為山鎮平莊民庶
仰崇而為氏神敕賜印南山号後將軍義滿公_{号鹿園院}
親書扁之同年中天皇下敕施齋田及禁屠殺_{其宣旨文}
永正二年_{回祿遭災}花園院正和五年丙辰下宣以平村中島
田圃施當寺而為永世齋資文保元年丁巳又有勅
禁釣弋後醍醐帝建武之年將軍兵部卿親王有台
旨點檢料田使無濫妨又下教書使禱平治亂兵曆
應庚辰將軍尊氏下嚴命遏止兇黨康永癸未赤松
氏義則承台旨制漁捕寄墾田觀應三年壬辰將軍

義詮永德二年壬戌將軍義滿應永十八辛卯將軍
義量各有^レ命檢^二本領禁^一佗妨^一文明貳年庚寅當寺第
七主盟利海大德平庄之裏小堂小社等請^レ之以鎮^二
民庶^一丁于永正二年乙丑祝融奮擊^二大作^一災害殿堂
門廂神祠僧室一朝^二成燼^一天文二年癸巳沙門十緣
以再營之事聞^二于内^一天垂^二綸命^一則給^二官符^一雖^レ余時屬^二
亂兵廢置其事^一天正十九辛卯豐臣秀吉公命家臣
生駒氏修理亮禁^二寺邊害捕^一也寬永二十癸未當寺
沙門真榮興^レ志賀東郡新部村源慶居士捨^二淨財^一而
建觀音閣住持比丘高順落慶之正保四年丁亥真

義詮永德二年壬戌將軍義滿應永十八辛卯將軍
義量各有^レ命檢^二本領禁^一佗妨^一文明貳年庚寅當寺第
七主盟利海大德平庄之裏小堂小社等請^レ之以鎮^二
民庶^一丁于永正二年乙丑祝融奮擊^二大作^一災害殿堂
門廂神祠僧室一朝^二成燼^一天文二年癸巳沙門十緣
以再營之事聞^二于内^一天垂^二綸命^一則給^二官符^一雖^レ余時屬^二
亂兵廢置其事^一天正十九辛卯豐臣秀吉公命家臣
生駒氏修理亮禁^二寺邊害捕^一也寬永二十癸未當寺
沙門真榮興^レ志賀東郡新部村源慶居士捨^二淨財^一而
建觀音閣住持比丘高順落慶之正保四年丁亥真

榮又勸兆庶建于鐘閣慶安元年戊子八月十七日
征夷大將軍源家光公特降^二台命^一定齋地今寶珠院
主阿闍黎某憤^二靈蹤之無^一記需^二予^一之筆錄^二不^レ揣愚陋
書記^二如右^一天和二年龍集壬戌季冬之日金剛乘沙
門淨嚴欽書

悉曇三密鈔叙引

有客問余曰頃聞子製悉曇三密鈔擅以竺邦文字
傳會真言教法漫為字義真實之說矣夫聲名句文
也者則不相應法而非色心法體亦是因緣而生之
假事也豈本有不改之真理耶又子之所謂三密也

榮又勸兆庶建于鐘閣慶安元年戊子八月十七日
征夷大將軍源家光公特降^二台命^一定齋地今寶珠院
主阿闍黎某憤^二靈蹤之無^一記需^二予^一之筆錄^二不^レ揣愚陋
書記^二如右^一天和二年龍集壬戌季冬之日金剛乘沙
門淨嚴欽書

悉曇三密鈔叙引

有客問余曰頃聞子製悉曇三密鈔擅以竺邦文字
傳會真言教法漫為字義真實之說矣夫聲名句文
也者則不相應法而非色心法體亦是因緣而生之
假事也豈本有不改之真理耶又子之所謂三密也

者世尊名之於如來不測之身口意誰關世間龐淺之文字乎又問子翫味梵國之風俗果有何益子儻有說莫負鐘谷余從容而告之曰吁子來前余雖不敏蚤入密林或作樸樸試為論之夫習分大小根殊頓漸或紆曲而到或直截而入是故如來設教三一作條顯密別科紆曲則顯教權巧直截則密藏本分也其顯教也者則寂滅理體說為自然無作動轉事相以為隨緣有為或譚性具隨緣或立法界緣起雖誇事理融昂而以事假理實假實體別果落隔歷故至其實說則泯事歸理遮情入空寂滅絕離以為宗

者世尊名之於如來不測之身口意誰關世間龐淺之文字乎又問子翫味梵國之風俗果有何益子儻有說莫負鐘谷余從容而告之曰吁子來前余雖不敏蚤入密林或作樸樸試為論之夫習分大小根殊頓漸或紆曲而到或直截而入是故如來設教三一作條顯密別科紆曲則顯教權巧直截則密藏本分也其顯教也者則寂滅理體說為自然無作動轉事相以為隨緣有為或譚性具隨緣或立法界緣起雖誇事理融即而以事假理實假實體別果落隔歷故至其實說則泯事歸理遮情入空寂滅絕離以為宗

極金剛頂守護國界等經云一切義成就菩薩身證十地不見身心寂滅平等住如實際者是也佛華法華法界真如及禪門所宗無位真人本分田地當之矣次密藏也者則直示唯佛果地之法故不立常途如情之事理所謂事者色心也胎藏金剛也色則五大心則識大理者名色智者名心是此色心無始本有自然法爾常恒真實無礙相應之故顯形表色名句文身聲香味觸飛沈動植無有一法而非真實之者一塵包萬法而同歸一念收曠劫而融攝是故山河艸木與人天鬼畜心性同一更不增減諸世天等

極金剛頂守護國界等經云一切義成就菩薩身證十地不見身心寂滅平等住如實際者是也佛華法華法界真如及禪門所宗無位真人本分田地當之矣次密藏也者則直示唯佛果地之法故不立常途如情之事理所謂事者色心也胎藏金剛也色則五大心則識大理者名色智者名心是此色心無始本有自然法爾常恒真實無礙相應之故顯形表色名句文身聲香味觸飛沈動植無有一法而非真實之者一塵包萬法而同歸一念收曠劫而融攝是故山河艸木與人天鬼畜心性同一更不增減諸世天等

與毘盧遮那德相平等無有勝劣是則偏就此有為
事相而說不二未曾寄彼無相真如而立圓融也若
夫說因緣假有則隨迷情所見而權示之耳若約覺
者所知則塵_レ法_レ常恒現起而超過生滅遠離假
實更非彼因位言心之所能及也所以諸顯教中說
之言斷心滅終不厝一言句也顯密優降權實差品
以之可識矣曰若大日薄伽梵為將來末世最上乘
者據自覺聖智本地境界加持世間童蒙所知文字
而說真言道句法所謂梵書阿字等乃至迦字等是
也斯阿字等則遮那恒演繹迦傳說淨天弘宣而約

實體則達磨亦有常存不亡故大毘盧遮那經說祕
密生此真言相非一切諸佛所作不令佗作亦不隨
喜何以故以是諸法法如是故若諸如來出現若諸
如來不出諸法法爾如是住謂諸真言真言法爾故
上明法介下示加持_レ秘密主成等正覺一切知者一切見者出
興于世而自此法說種種道隨種種樂欲種種諸衆
生心以種種句種種文種種隨方語言種種諸趣音
聲而加以持說真言道_{下明真言道}及能所加持_{及能所加持}祕密主云何如
來真言道謂加持此書寫文字_{至乃祕密主}以要言之
諸如來一切智智一切如來自福智力自願智力一

與毘盧遮那德相平等無有勝劣是則偏就此有為
事相而說不二未曾寄彼無相真如而立圓融也若
夫說因緣假有則隨迷情所見而權示之耳若約覺
者所知則塵々法々常恒現起而超過生滅遠離假
實更非彼因位言心之所能及也所以諸顯教中說
之言斷心滅終不厝一言句也顯密優降權實差品
以之可識矣曰若大日薄伽梵為將來末世最上乘
者據自覺聖智本地境界加持世間童蒙所知文字
而說真言道句法所謂梵書阿字等乃至迦字等是
也斯阿字等則遮那恒演繹迦傳說淨天弘宣而約

實體則達磨亦有常存不亡故大毘盧遮那經說祕
密生此真言相非一切諸佛所作不令佗作亦不隨
喜何以故以是諸法法如是故若諸如來出現若諸
如來不出諸法法爾如是住謂諸真言真言法爾故
上明法介下示加持_レ秘密主成等正覺一切知者一切見者出
興于世而自此法說種種道隨種種樂欲種種諸衆
生心以種種句種種文種種隨方語言種種諸趣音
聲而加以持說真言道_{下明真言道}及能所加持_{及能所加持}祕密主云何如
來真言道謂加持此書寫文字_{至乃祕密主}以要言之
諸如來一切智智一切如來自福智力自願智力一

切法界加持力隨順衆生如其種類開示真言教法
下出云何真言教法謂阿字門一切諸法本不生故
迦字門一切諸法離作業故訶字門一切諸法因
不可得故無畏三藏說世尊以未來世衆生鈍根故
迷於二諦不知即俗而真是故慇懃指事言祕密主
云何如來真言道謂加持此書寫文字以世間文字
語言實義是故如來即以真言實義而加持之若出
法性外別有世間文字者即是妄心謬見是則隨於
顛倒非真言也_上而此阿等即是形音形音必帶義
趣形音則可見可聞豈非身語二密義則可念豈非

意密形音全體即是義趣無二無別故云聲即字字
即實相經云真言相獨為此也而以單言隻字含苞
法界故禮誦之則曠劫業海忽竭修觀之則無始煩
塵頓祛乃至現生證如來地故經又云真言三昧門
圓滿一切願所謂諸如來不可思議果具足衆勝願
真言決定義超越於三世無垢同虛空住不思議心
起作諸事業到修行地者授不思議果是第一真實
諸佛所開示若知此法教當得諸悉地最勝真實聲
真言真言相行者諦思惟當得不壞句_上然則彼梵
書者即是真言道又是法佛法然三密而有如斯勝

切法界加持力隨順衆生如其種類開示真言教法
下出云何真言教法謂阿字門一切諸法本不生故
迦字門一切諸法離作業故訶字門一切諸法因
不可得故無畏三藏說世尊以未來世衆生鈍根故
迷於二諦不知即俗而真是故慇懃指事言祕密主
云何如來真言道謂加持此書寫文字以世間文字
語言實義是故如來即以真言實義而加持之若出
法性外別有世間文字者即是妄心謬見是則隨於
顛倒非真言也_上而此阿等即是形音形音必帶義
趣形音則可見可聞豈非身語二密義則可念豈非

意密形音全體即是義趣無二無別故云聲即字字
即實相經云真言相獨為此也而以單言隻字含苞
法界故禮誦之則曠劫業海忽竭修觀之則無始煩
塵頓祛乃至現生證如來地故經又云真言三昧門
圓滿一切願所謂諸如來不可思議果具足衆勝願
真言決定義超越於三世無垢同虛空住不思議心
起作諸事業到修行地者授不思議果是第一真實
諸佛所開示若知此法教當得諸悉地最勝真實聲
真言真言相行者諦思惟當得不壞句_上然則彼梵
書者即是真言道又是法佛法然三密而有如斯勝

益然^ニ你^ヲ未^レ辨^セ顯密兩乘之大歸^ニ猥^ニ將^ニ空見ノ小管^ヲ而窺^ヒ
不生^ニ義天^ヲ提^テ偏執^ヲ拙蠹^ヲ而測^ニ無盡ノ德海^ヲ苟^ニ加^ニ疑難^ニ豈^ニ
可^ク當^ル耶客唯^ニ唯^ニ而退^シ矣今^ニ割^リ闕^氏請^フ梓行之故叙其
始末而以冠其端不顧鄙野之誚^ヲ惟冀後之學者知
其要樞云昔天和第二龍集玄默闍茂季夏初朔布
灑星日住河州延命密寺傳瑜伽上乘小苾芻淨嚴
書于寶輪堂

題松本重政別墅 在備後御調

寶巖秀海門形勢實崑崙山叟初相宅天王是作藩
紅桃一丘壑丹棗別乾坤借問娛何事為離世俗樊

法然上人影贊
天降木鐸海東濱苦告蒼生植淨因若要法然常介
佛谿禽野獸是天真

善導大師影贊

莫向外邊勞討探早求性淨恚癡貪口中不吐法身
佛誰一心元具三

天和三癸亥年 行年五十五

高祖大師講般若心經影贊^{右持劍左持珠住}
^{皇智首合掌之狀應攝州東生郡小}
^{橋興德寺主憲意阿闍梨之求}
皇哉遍照輪赫耀無明國奇矣般若刀頓鑿煩惱賊

益然^ニ你^ヲ未^レ辨^セ顯密兩乘之大歸^ニ猥^ニ將^ニ空見ノ小管^ヲ而窺^ヒ
不生^ニ義天^ヲ提^テ偏執^ヲ拙蠹^ヲ而測^ニ無盡ノ德海^ヲ苟^ニ加^ニ疑難^ニ豈^ニ
可^ク當^ル耶客唯^ニ唯^ニ而退^シ矣今^ニ割^リ闕^氏請^フ梓行之故叙其
始末而以冠其端不顧鄙野之誚^ヲ惟冀後之學者知
其要樞云時天和第二龍集玄默闍茂季夏初朔布
灑星日住河州延命密寺傳瑜伽上乘小苾芻淨嚴
書于寶輪堂

題松本重政別墅 在備後御調

寶巖秀海門形勢實崑崙山叟初相宅天王是作藩
紅桃一丘壑丹棗別乾坤借問娛何事為離世俗樊

法然上人影贊
天降木鐸海東濱苦告蒼生植淨因若要法然常介
佛谿禽野獸是天真

善導大師影贊

莫向外邊勞討探早求性淨恚癡貪口中不吐法身
佛誰一心元具三

天和三癸亥年 行年五十五

高祖大師講般若心經影贊^{右持劍左持珠住}
^{皇智首合掌之狀應攝州東生郡小}
^{橋興德寺主憲意阿闍梨之求}
皇哉遍照輪赫耀無明國奇矣般若刀頓鑿煩惱賊

講經上人才蠲災聖帝力魑魅散海外萬古賴罔極

高祖大師童形像贊應長州發光寺僧澄海求

精神英發提孩日八片蓮臺入夢魂接語遍空麻集
佛宜乎万世獨稱尊

天和四甲子年行年四十六

甲子早春修愛王密供

運迎甲子尚嚴寒父老何為強笑歡三上修持三業
寂一緣諦想一心安刹那蕩盡無明垢法界圓融
密壇我道春來無別事千山不改舊年看

高祖大師八百五十回忌漫茶羅供表白

講經上人才蠲災聖帝力魑魅散海外萬古賴罔極

高祖大師童形像贊應長州發光寺僧澄海求

精神英發提孩日八片蓮臺入夢魂接語遍空麻集
仙宜乎万世独稱尊

天和四甲子年行年四十六

甲子早春修愛王密供

運迎甲子尚嚴寒父老何為強笑歡三上修持三業
寂一緣諦想一心安刹那蕩盡無明垢法界圓融
密壇我道春來無別事千山不改旧年看

高祖大師八百五十回忌漫茶羅供表白

敬白祕密教主三世常住淨妙法身摩訶毘盧遮那

如來金剛界會三十七尊九會漫茶羅諸尊聖衆大

悲胎藏八葉蓮臺十三大院塵刹聖衆殊奉始弘法

大師祕密傳燈三國列祖諸大阿闍黎耶摠密嚴華

藏帝網重重四曼三寶境界而言夫以曼荼四法身

蚊睫之類本盲羅睺性然三祕密蝸角之屬忽忘大

鵬唯佛與佛說之聽之自證自覺誰示誰與是則地

論之所指不說一乘三駕輾折軸碎大衍之所貴絕

離一心三自足斷手亡若非遮那往昔悲願薩埵現

今流傳薄命遙阻視聽重垢豈得窺窺與乃龍猛菩

敬白祕密教主三世常住淨妙法身摩訶毘盧遮那

如來金剛界會三十七尊九會漫茶羅諸尊聖衆大

悲胎藏八葉蓮台十三大院塵刹聖衆殊奉始弘法

大師祕密傳燈三國列祖諸大阿闍黎耶摠密嚴華

藏帝網重重四曼三寶境界而言夫以曼荼四法身

蚊睫之類本盲羅睺性然三祕密蝸角之屬忽忘大

鵬唯佛與佛說之聽之自證自覺誰示誰與是則地

論之所指不說一乘三駕輾折軸碎大衍之所貴絕

離一心三自足斷手亡若非遮那往昔悲願薩埵現

今流傳薄命遙阻視聽重垢豈得窺窺與乃龍猛菩

薩出^{サツ}月氏^{ゲツシ}而開^キ鐵塔^{テツタ}弘法大師起^キ日域^{ニッポク}以傳^{ツク}金杵^{キンシ}於^ニ是^ニ我^ニ即法身之義幢^ニ高^{タカク}峙^シ西域^{セキヤク}之虛^ニ凡^{ソノ}即是佛之法
雷普震^{ライフシン}東垂^{トウシュイ}之地^ニ遂^ス乃清涼^{セイリョウ}論場^{ロンバウ}顯宗^{ケンソウ}靡^レ旗^ヲ一人三
公避^サ席^ニ頂禮^{トウレイ}乾臨^{ケンリン}祈雨^{シユ}真龍^{マリン}現^レ壇^ニ百姓^{ヘキヤク}萬民^{マンミン}擊壤^{キヤクニヤウ}歡
抃^{ヘン}自^{ヨリ}余^ニ已降^シ小野^{コノノ}雅風^{ヤフウ}陣陣^{ジンジン}周^ヲ扇^ヲ于卒土^{ソツツ}廣澤^{コウサツ}清派
渾渾^{コンコン}潤^ニ涵^ニ於普天^{フテン}絲^シ旃^{セン}像^{ゾウ}末^{マツ}劣器^{レツキ}輒^ニ受^ケ瑜伽^{ユカ}之深法^ニ
澆季^{コウキ}最^{サイ}品^ニ親^ニ拜^ス曼茶^{マンチャ}之勝境^ニ其^ノ恩戴^{オンタイ}之超^ニ于高天^{コウテン}厥^ニ
德測^{トクソク}之過^ニ于深海^{コウカイ}是以^ニ一山^{イツサン}大衆^{ダイシュウ}等迎^ニ八百五十^{ハチヒトイソ}之
忌景^{キキヤウ}飾^ニ輪圓^{リンエン}具足^{クゾク}之密壇^{ミツダン}開^ニ八葉九會^{ハツエツクウエ}之尊容^{ソノクニ}展^ニ殷
勤^{キン}供養^{コウヤウ}之梵席^{フンセキ}然^{レバ}則^ニ旛蓋^{フンガイ}飄飄^{フウフウ}遠^ニ喜^ニ下凡^{ゲキカ}之眼^ニ鈴鐸^{リンダク}

薩出^{サツ}月氏^{ゲツシ}而開^キ鐵塔^{テツタ}弘法大師起^キ日域^{ニッポク}以傳^{ツク}金杵^{キンシ}於^ニ是^ニ我^ニ即法身之義幢^ニ高^{タカク}峙^シ西域^{セキヤク}之虛^ニ凡^{ソノ}即是佛之法
雷普震^{ライフシン}東垂^{トウシュイ}之地^ニ遂^ス乃清涼^{セイリョウ}論場^{ロンバウ}顯宗^{ケンソウ}靡^レ旗^ヲ一人三
公避^サ席^ニ頂禮^{トウレイ}乾臨^{ケンリン}祈雨^{シユ}真龍^{マリン}現^レ壇^ニ百姓^{ヘキヤク}萬民^{マンミン}擊壤^{キヤクニヤウ}歡
抃^{ヘン}自^{ヨリ}余^ニ已降^シ小野^{コノノ}雅風^{ヤフウ}陣陣^{ジンジン}周^ヲ扇^ヲ于卒土^{ソツツ}廣澤^{コウサツ}清派
渾渾^{コンコン}潤^ニ涵^ニ於普天^{フテン}絲^シ旃^{セン}像^{ゾウ}末^{マツ}劣器^{レツキ}輒^ニ受^ケ瑜伽^{ユカ}之深法^ニ
澆季^{コウキ}最^{サイ}品^ニ親^ニ拜^ス曼茶^{マンチャ}之勝境^ニ其^ノ恩戴^{オンタイ}之超^ニ于高天^{コウテン}厥^ニ
德測^{トクソク}之過^ニ于深海^{コウカイ}是以^ニ一山^{イツサン}大衆^{ダイシュウ}等迎^ニ八百五十^{ハチヒトイソ}之
忌景^{キキヤウ}飾^ニ輪圓^{リンエン}具足^{クゾク}之密壇^{ミツダン}開^ニ八葉九會^{ハツエツクウエ}之尊容^{ソノクニ}展^ニ殷
勤^{キン}供養^{コウヤウ}之梵席^{フンセキ}然^{レバ}則^ニ旛蓋^{フンガイ}飄飄^{フウフウ}遠^ニ喜^ニ下凡^{ゲキカ}之眼^ニ鈴鐸^{リンダク}

鏗鏘^{キヤウキヤウ}迴駭^{クワイカイ}上天^{ツクハ}之聽^ニ丹棘^ニ無^シ貳^ニ玄鑒^{ゲンケン}必^ズ周^ヲ重^ニ乞^フ一天
泰平^{タイヘイ}四海^{サイカイ}悉^ニ誇^ヲ無^シ為^ニ之化^ニ三寶^{サンポウ}紹隆^{ショウリウ}萬生^{マンセイ}共^ニ出^ニ有漏^{ユルロウ}
之棲^ニ歟^ニ至^ニ法界^{ホフケ}平等^ニ利益^ニ敬^ス白^ス

同漫荼羅供誦經表白 同上

敬^テ白^ス真言教主大日如來金剛界會三十七尊九會
漫拏^{マンナ}擺塵^{バイジン}刹聖衆^{シヤクジョウ}并^ニ大悲胎藏八葉蓮臺十三大院
諸尊聖衆殊^{シヨ}本朝高祖遍照金剛三國傳燈諸大阿
闍黎耶總^{アケリヤソウ}佛眼所照恒沙塵數^{フツガンソウショウコウシャジンズ}一切^ニ三寶^{サンポウ}而言^ニ夫兩
部曼荼羅之界會^ニ者華藏世界^{ケワサウセカイ}梵儀凡夫二乘各住^{フンギフツニジョウカクヂュウ}
實際密嚴國土^{ジツツミツクニ}佛會等覺十地^{ブツエトウキヤクジュウジ}豈^ニ得^ニ企望^ニ是^ニ故^ニ大慧

鏗鏘^{キヤウキヤウ}迴駭^{クワイカイ}上天^{ツクハ}之聽^ニ丹棘^ニ無^シ貳^ニ玄鑒^{ゲンケン}必^ズ周^ヲ重^ニ乞^フ一天
泰平^{タイヘイ}四海^{サイカイ}悉^ニ誇^ヲ無^シ為^ニ之化^ニ三寶^{サンポウ}紹隆^{ショウリウ}萬生^{マンセイ}共^ニ出^ニ有漏^{ユルロウ}
之棲^ニ乃^ニ至^ニ法界^{ホフケ}平等^ニ利益^ニ敬^ス白^ス

同漫荼羅供誦經表白 同上

敬^テ白^ス真言教主大日如來金剛界會三十七尊九會
漫拏^{マンナ}擺塵^{バイジン}刹聖衆^{シヤクジョウ}并^ニ大悲胎藏八葉蓮臺十三大院
諸尊聖衆殊^{シヨ}本朝高祖遍照金剛三國伝灯諸大阿
闍黎耶總^{アケリヤソウ}佛眼所照恒沙塵數^{フツガンソウショウコウシャジンズ}一切^ニ三寶^{サンポウ}而言^ニ夫兩
部曼荼羅之界會^ニ者華藏世界^{ケワサウセカイ}梵儀凡夫二乘各住^{フンギフツニジョウカクヂュウ}
實際密嚴國土^{ジツツミツクニ}佛會等覺十地^{ブツエトウキヤクジュウジ}豈^ニ得^ニ企望^ニ是^ニ故^ニ大慧

菩薩之冥搜能仁不許其奧室迦葉童子之扣問寂
尊未聞厥玄關一道一乘妙則妙恐隔身口心印分
齊三自三大幽則幽恨非大三法羯闍域人法離絕
蓋以如斯伏以高祖遍照金剛者天誕聖神童幼嬉
戲四王執蓋人推英傑龍象議論諸師碎鋒故能問
秘教之津陵鯨波而忘命令稟上乘之派歸馬臺而霑
生加旃云靈屈云名山往往開其基址或義龍或智
虎濟濟出其門庭凡夫田翁野夫諷誦毗盧之真教
街市市豎觀見漫茶之密儀咸皆受其遺光莫不蒙
其餘烈粵當寺者高祖大師之所卜食實慧和尚之

所繼興寶塔寶杵傳邈古之英靈神像神井示絕代
之奇異因茲聖主賢相施膏腴之齋田武將文臣成
輪奐之營構至今未徒等安其禪居嘗其法味職而
斯由底用報酬是以一山大衆等迎八百餘回之忌
辰點曩祖經行之金地供兩部界會之尊像盡末弟
報謝之丹心頃讚頻揚暗識鐵塔婆之集會螺鈸更
奏信合金剛殿之法儀天龍定隨喜中誠神鬼又感
動至懇況復導師禪下權少僧都法眼和尚位宿植
善本早入瑜伽之門切蒙師承遂窮遮那之奧衆庶
皆涵濡其恩澤慈愍殷勤也諸弟各游泳其德涯訓

菩薩之冥搜能仁不許其奧室迦葉童子之扣問寂
尊未聞厥玄關一道一乘妙則妙恐隔身口心印分
齊三自三大幽則幽恨非大三法羯闍域人法離絕
蓋以如斯伏以高祖遍照金剛者天誕聖神童幼嬉
戲四王執蓋人推英傑龍象議論諸師碎鋒故能問
秘教之津陵鯨波而忘命令稟上乘之派歸馬臺而霑
生加旃云靈屈云名山往往開其基址或義龍或智
虎濟濟出其門庭凡夫田翁野夫諷誦毗盧之真教
街市市豎觀見漫茶之密儀咸皆受其遺光莫不蒙
其餘烈粵當寺者高祖大師之所卜食實慧和尚之

所繼興寶塔寶杵傳邈古之英靈神像神井示絕代
之奇異因茲聖主賢相施膏腴之齋田武將文臣成
輪奐之營構至今未徒等安其禪居嘗其法味職而
斯由底用報酬是以一山大衆等迎八百餘回之忌
辰點曩祖經行之金地供兩部界會之尊像盡末弟
報謝之丹心頃讚頻揚暗識鐵塔婆之集會螺鈸更
奏信合金剛殿之法儀天龍定隨喜中誠神鬼又感
動至懇況復導師禪下權少僧都法眼和尚位宿植
善本早入瑜伽之門切蒙師承遂窮遮那之奧衆庶
皆涵濡其恩澤慈愍殷勤也諸弟各游泳其德涯訓

導嚴肅也至德所致先聖盍容觀夫妙華發梢呈心
蓮開敷之色神木圍砌表靈神衛護之儀景趣契合
自然悉地成辨誰怪方今響三下之逸韻駭三部之
聖尊撥六天之障難歸六天之法位伏乞滿山靜謐
人法紹隆一天泰平庶民富樂乃至塵刹平等遍施
敬白

同諷誦文

夫以道不自弘弘必待人人不孤升升定由法此故
能寂臨西竺三乘之道宣傳遍照出東扶兩部之教
彌布因茲六趣迷醉早悟自心之都萬劫生盲頓開

本覺之眼凡有心者誰不念恩是以開兩部曼荼之
金容修秘密瑜伽之淨則排七星如意之瓊殿諷理
趣般若之妙文若介元品無明之塵埃與春風而忽
散本初不生之法教伴夜雨而普霑粵乃叩九乳之
鳧鐘驚兩足之象步仰乞大覺照察微忱天和四年
二月二十一日

貞享元年甲子年 行年四十六

傳法灌頂誦經表白 高祖大師八百五十回忌
敬白 秘密教主三世常恒淨妙法身法界體性毗盧
遮那如來金剛界會三十七尊九會曼荼羅諸尊聖

導嚴肅也至德所致先聖盍容觀夫妙華發梢呈心
蓮開敷之色神木圍砌表靈神衛護之儀景趣契合
自然悉地成辨誰怪方今響三下之逸韻駭三部之
聖尊撥六天之障難歸六天之法位伏乞滿山靜謐
人法紹隆一天泰平庶民富樂乃至塵刹平等遍施
敬白

同諷誦文

夫以道不自弘弘必待人人不孤升升定由法此故
能寂臨西竺三乘之道宣傳遍照出東扶兩部之教
彌布因茲六趣迷醉早悟自心之都萬劫生盲頓開

本覺之眼凡有心者誰不念恩是以開兩部曼荼之
金容修秘密瑜伽之淨則排七星如意之瓊殿諷理
趣般若之妙文若介元品無明之塵埃與春風而忽
散本初不生之法教伴夜雨而普霑粵乃叩九乳之
鳧鐘驚兩足之象步仰乞大覺照察微忱天和四年
二月二十一日

貞享元年甲子年 行年四十六

傳法灌頂誦經表白 高祖大師八百五十回忌
敬白 秘密教主三世常恒淨妙法身法界體性毗盧
遮那如來金剛界會三十七尊九會曼荼羅諸尊聖

衆并大悲胎藏八葉蓮臺十三大院塵刹聖衆殊奉
始弘法大師三國傳燈諸大阿闍黎耶總佛眼所照
微塵刹土帝網錠光不可說不可說四曼三寶境界
而言夫祕密灌頂入曼荼羅儀則者最尊最上眞道
至聖之智獨窮源直入直證玄門凡庸之族頓登極
大三法羯各住自性而駢闐天龍鬼神均示已有以
羅列自作自十地等覺其猶病諸玄玄又玄二乘
凡夫豈能測也是則機離生滅言非筌蹄故也雖然
流水絃音必待子期之聽古塚典籍固因張華之知
粵若妙雲如來之闢塔門等正覺教始布西域遍照

金剛之航溟海清淨句終傳東嶠國泰民安顧此教
王之力災蠲祥至一是法威之資何況出四衆于煩
籠濟萬生於苦海證四身于凡體嚴方德于我身深
手導師之恩晒麼噓之猶淺高哉高祖之德蔑蘇迷
之還低愛弟子等值遇佛光遠承師祖之餘照沐浴
德澤飽沾祕密之末流經說酬答三寶之恩不如傳
法利生伏惟現前大阿闍黎耶天生勇勤三乘達磨
竭力鍊習民瞻親教諸尊瑜伽效誠受持常以傳燈
為心豈敢逐他名利唯以度生為事未曾欲自歡娛
軌範是當津梁寧外抑斯道場者上宮創建秦氏克

衆并大悲胎藏八葉蓮臺十三大院塵刹聖衆殊奉
始弘法大師三國傳燈諸大阿闍黎耶總佛眼所照
微塵刹土帝網錠光不可說不可說四曼三寶境界
而言夫祕密灌頂入曼荼羅儀則者最尊最上眞道
至聖之智獨窮源直入直證玄門凡庸之族頓登極
大三法羯各住自性而駢闐天龍鬼神均示已有以
羅列自作自十地等覺其猶病諸玄玄又玄二乘
凡夫豈能測也是則機離生滅言非筌蹄故也雖然
流水絃音必待子期之聽古塚典籍固因張華之知
粵若妙雲如來之闢塔門等正覺教始布西域遍照

金剛之航溟海清淨句法終傳東嶠國泰民安顧此教
王之力災蠲祥至一是法威之資何況出四衆于煩
籠濟萬生於苦海證四身于凡體嚴方德于我身深
手導師之恩晒麼噓之猶淺高哉高祖之德蔑蘇迷
之還低愛弟子等值遇佛光遠承師祖之餘照沐浴
德澤飽沾祕密之末流經說酬答三寶之恩不如傳
法利生伏惟現前大阿闍黎耶天生勇勤三乘達磨
竭力鍊習民瞻親教諸尊瑜伽效誠受持常以傳燈
為心豈敢逐他名利唯以度生為事未曾欲自歡娛
軌範是當津梁寧外抑斯道場者上宮創建秦氏克

繼其勲，睿尊中興，圓公不墜厥緒，彩椽奪朝霞之色，飛閣衝雲，明珠吞夕曛之輝，高旛干漢，於戲慘乎忽罹兵燹，可憐丘墟，狐兔成棲，州莽埋礎，而今法主禪下覽斯陵，替歎息有餘，嬰此經營，勞勩無數，遂使佛殿先創，祖堂緇白，投貲鄰里，勩力信解，神變寶閣不日而幻成，遍照妙權，靈像應時以出現，粵乃丁八百五十之回忌，展報恩謝德之寸丹，開四重九會之密壇，洽傳法結緣之大利，況復重受者新阿闍梨耶持律純淑等，羅云之密行，求法懇誠，超薩陀之請願，是以已受三摩之淨戒，能住三等之觀心，頓清二

繼其勲，睿尊中興，圓公不墜厥緒，彩椽奪朝霞之色，飛閣衝雲，明珠吞夕曛之輝，高旛干漢，於戲慘乎忽罹兵燹，可憐丘墟，狐兔成棲，州莽埋礎，而今法主禪下覽斯陵，替歎息有餘，嬰此經營，勞勩無數，遂使佛殿先創，祖堂緇白，投貲鄰里，勩力信解，神變寶閣不日而幻成，遍照妙權，靈像應時以出現，粵乃丁八百五十之回忌，展報恩謝德之寸丹，開四重九會之密壇，洽傳法結緣之大利，況復重受者新阿闍梨耶持律純淑等，羅云之密行，求法懇誠，超薩陀之請願，是以已受三摩之淨戒，能住三等之觀心，頓清二

執之垢塵，將入二界之集會，觀夫林花張錦，漫荼之色相，入眸山泉奏琴，達磨之音響，在耳依正實符契，懇祈盃圖成方，今發三下之蒲牢，驚三部之蓮座，白六合之諸聖，覺六趣之羣眠，仰乞諸天證明，八部隨喜，各垂擁護，共為加持，敬白。

同諷誦文

右於佛教始興之勝地，聖德艸創之靈蹤，欽營祖堂，土木之功，不日速就，懇作法事，岳瀆之恩，懷古云酬，誠惟云傳法，云結緣，利益之深，滄海匪比，或花香或唄讚供養之大，空界何傳，弟子某甲，夙因早催，今遇

執之垢塵，將入二界之集會，觀夫林花張錦，漫荼之色相，入眸山泉奏琴，達磨之音響，在耳依正實符契，懇祈盃圖成方，今發三下之蒲牢，驚三部之蓮座，白六合之諸聖，覺六趣之羣眠，仰乞諸天證明，八部隨喜，各垂擁護，共為加持，敬白。

同諷誦文

右於佛教始興之勝地，聖德艸創之靈蹤，欽營祖堂，土木之功，不日速就，懇作法事，岳瀆之恩，懷古云酬，誠惟云傳法，云結緣，利益之深，滄海匪比，或花香或唄讚供養之大，空界何傳，弟子某甲，夙因早催，今遇

際會現證可驗已蒙加持欣躍之喜惟多報謝之志
猶少聊捧微物薄表寸忱海會諸尊希賜納受敬白
貞享元年三月七日受者敬白

漫茶羅供表白 天野山衆徒

夫以知恩報恩史傳之所褒賞背德忘德經教之所
叱呵四恩之中最勝尊上是三寶三寶之內親切教
導是師僧粵根本高祖大遍照金剛者地治英靈廣
大含蓄天縱精粹特達高明高明則上窮法身孰知
廣大則下拯溺子鮮測厥涯故能泝瑜伽源遠追南
印施漫茶潤普及東垂自余已降海隅邊徼之民咸

受其賸馥僕健卑隸之屬齊蒙厥餘熏弟子等人實
卑微法輪食輪茲轉器惟斗筭世出世間方昌併惟
彼廣恩豈得不酬報因茲一山大眾等點八百五十
之忌景開四重九會之尊儀奏美音樂音之妙聲頌
梵唄梵讚之清調冀使一見之輩曠劫之罪消三拜
之人現生之災滅天龍鬼畜之道早赴其坦途鱗蹄
角牙之速免彼劇苦重乞四海安泰邁唐堯虞舜
之時三寶紹隆勝支那天竺之國寺院繁興人法久
昌乃至十方平等利益敬白
和州添下郡般若窟之記 應寶山湛海師之求也

際會現證可驗已蒙加持欣躍之喜惟多報謝之志
猶少聊捧微物薄表寸忱海會諸尊希賜納受敬白
貞享元年三月七日受者敬白

漫茶羅供表白 天野山衆徒

夫以知恩報恩史傳之所褒賞背德忘德經教之所
叱呵四恩之中最勝尊上是三寶三寶之內親切教
導是師僧粵根本高祖大遍照金剛者地治英靈廣
大含蓄天縱精粹特達高明高明則上窮法身孰知
廣大則下拯溺子鮮測厥涯故能泝瑜伽源遠追南
印施漫茶潤普及東垂自余已降海隅邊徼之民咸

受其賸馥僕健卑隸之屬齊蒙厥餘熏弟子等人實
卑微法輪食輪茲轉器惟斗筭世出世間方昌併惟
彼廣恩豈得不酬報因茲一山大眾等點八百五十
之忌景開四重九會之尊儀奏美音樂音之妙聲頌
梵唄梵讚之清調冀使一見之輩曠劫之罪消三拜
之人現生之災滅天龍鬼畜之道早赴其坦途鱗蹄
角牙之速免彼劇苦重乞四海安泰邁唐堯虞舜
之時三寶紹隆勝支那天竺之國寺院繁興人法久
昌乃至十方平等利益敬白

和州添下郡般若窟之記 應寶山湛海師之求也

和州添下郡般若嶺也者國中第一之靈巖也霧帳懸月大悲之滋潤及于塵類雲幙展風真如之熏馥普于恒利天開四方見法界之罔極嶺聳一面識種種智之無上喬木之交梢也青嵐拂而自轉法輪之音聲怪巖之爭奇也蒼苔封而實示常住之色相初予一來覽有意棲遲即縛艸菴四上持念真修之者踵而集之當國郡山城主本多氏家臣梶金平施財數回予造慈氏尊像構堂一無自用後金平來見而嘆曰我之寄金則資師之衣食也不意盡為寺像用至利予予也予雖貧窶希以俸祿之餘時助師之志矣

即重傾家資創虛空藏寶閣以擬於求聞持法之道場也又建一日三碓鄉信士大神又左衛門尉和家率同志三人而訪予之次仰望巖頭十三級石塔婆儼然而在大神氏駭而謂同志曰未聞何日建此塔婆也此是大塔婆也計工夫必多海師何為不聞之于吾儼乎已而入予菴述上件事予曰無有也信士等驚嗟耳於是訪于近鄉尋於鄰里而覓缺層之石塔婆無幾而得一十三級即平向所見塔婆之窮巖而立之噫嘻雖言興廢任運行藏隨時而微檀信則殆廢替之予嘉其淨信故記

和州添下郡般若嶺也者國中第一之靈巖也霧帳懸月大悲之滋潤及于塵類雲幙展風真如之熏馥普于恒利天開四方見法界之罔極嶺聳一面識種種智之無上喬木之交梢也青嵐拂而自轉法輪之音聲怪巖之爭奇也蒼苔封而實示常住之色相初予一來覽有意棲遲即縛艸菴四上持念真修之者踵而集之當國郡山城主本多氏家臣梶金平施財數回予造慈氏尊像構堂一無自用後金平來見而嘆曰我之寄金則資師之衣食也不意盡為寺像用至利予予也予雖貧窶希以俸祿之余時助師之志矣

即重傾家資創虛空藏寶閣以擬於求聞持法之道場也又建一日三碓鄉信士大神又左衛門尉和家率同志三人而訪予之次仰望巖頭十三級石塔婆儼然而在大神氏駭而謂同志曰未聞何日建此塔婆也此是大塔婆也計工夫必多海師何為不聞之于吾儼乎已而入予菴述上件事予曰無有也信士等驚嗟耳於是訪于近鄉尋於鄰里而覓缺層之石塔婆無幾而得一十三級即平向所見塔婆之窮巖而立之噫嘻雖言興廢任運行藏隨時而微檀信則殆廢替之予嘉其淨信故記

弘法大師像贊八月二十一日

宏量大度巍巍蕩蕩問津進帆細載迴槳上乘建幢
三等張網佛國斯治猶如運掌

今茲十一月有事客于東武僑居三田之商家

茅戶寂寥無有一事十二月廿六日午後彤雲

四布雪下續紛頃刻而平地半尺頃日寫于撰
真實經其中有言入毗盧遮那如來三昧當觀

唵字色及我身十方世界悉皆白色因而口占
一律

靜戶寫經呵手頻晚來膝六勢無倫喜觀窓牖增光

弘法大師像贊八月二十一日

宏量大度巍巍蕩蕩問津進帆細載迴槳上乘建幢
三等張網佛國斯治猶如運掌

今茲十一月有事客于東武僑居三田之商家

茅戶寂寥無有一事十二月廿六日午後彤雲

四布雪下續紛頃刻而平地半尺頃日寫于撰
真實經其中有言入毗盧遮那如來三昧當觀

唵字色及我身十方世界悉皆白色因而口占
一律

靜戶寫經呵手頻晚來膝六勢無倫喜觀窓牖增光

耀況是街衢絕點塵萬瓦瓊鋪忽疑月千林花發頓
回春毗盧法界本清淨白盡東西南北人

貞享二乙丑年行年四十七

早春寓于東武城隅自昨暮天色點然至夜雪

下早起而見稍成厚深可六七寸及于午後天

晴口號一章

歲暮江天數彤雲夜來雪片下紛紛祝新田叟變烏

帽喜且街童沾茜裙後禪心娛靜坐齋餘望眼捲

祥氛騷人若問試毫否報道年來不事文

去歲十月十六出河南延命舊居赴于東關其

耀況是街衢絕點塵萬瓦瓊鋪忽疑月千林花發頓
回春毗盧法界本清淨白盡東西南北人

貞享二乙丑年行年四十七

早春寓于東武城隅自昨暮天色點然至夜雪

下早起而見稍成厚深可六七寸及于午後天

晴口號一章

歲暮江天數彤雲夜來雪片下紛紛祝新田叟變烏

帽喜且街童沾茜裙後禪心娛靜坐齋餘望眼捲

祥氛騷人若問試毫否報道年來不事文

去歲十月十六出河南延命舊居赴于東關其

前夜五更瑞雲三道出延命方丈之上其末稍
潤盡東北霄不見厥末蓋予慈父家僕宗心之
者獨起偶見餘無見者予始末之知頃日河南
令兄玄澤叟及二三子等裁書賀來復告予之
四五載而猶嘲母乳之時弘法大師託彼宗
心屢宣告予事與聞之者慈父悲母叔父良信
及玄澤耳今三人已亡焉唯有玄澤也其事委
因感而述一律正月二十一日

前夜五更瑞雲三道出延命方丈之上其末稍
潤盡東北霄不見厥末蓋予慈父家僕宗心之
者獨起偶見餘無見者予始末之知頃日河南
令兄玄澤叟及二三子等裁書賀來復告予之
四五載而猶嘲母乳之時弘法大師託彼宗
心屢宣告予事與聞之者慈父悲母叔父良信
及玄澤耳今三人已亡焉唯有玄澤也其事委
因感而述一律正月二十一日

靄浮誰識吾生絕羈市朝閑裏得真幽

雪中聞鷺有感末法二月日

天色空濛雪下晨餘寒徹骨巨堪貧溫其玉學屢娛
客赫彼錦衣誠絕倫三密瑜伽唯有教五相毗鉢却
無人黃鸝你是何為者遷到簷端百轉新
和越之前州瀧谷寺慶範師韻兼餞別北越之
歸三月初八

邂逅逢君武野濱蓋傾目擊道相親鐘期一去知音
絕何許良醫療我貧
探心略記一冊寫了個裏阿字三義一章不守

靄浮誰識吾生絕羈市朝閑裏得真幽

雪中聞鷺有感末法二月日

天色空濛雪下晨餘寒徹骨巨堪貧溫其玉學屢娛
客赫彼錦衣誠絕倫三密瑜伽唯有教五相毗鉢却
無人黃鸝你是何為者遷到簷端百轉新
和越之前州瀧谷寺慶範師韻兼餞別北越之
歸三月初八

邂逅逢君武野濱蓋傾目擊道相親鐘期一去知音
絕何許良醫療我貧
探心略記一冊寫了個裏阿字三義一章不守

自家不共之深義忽同權佛無相之諦理恐未
免大師先哲之責今以返壁慶範閣黎同日
探心一軸信能言可惜攀枝未盡根本有通衢久捺
塞勿將焉取泥空門

觀心寺恒例祖師忌辰曼荼羅供誦經表白

三月十日

夫兩部秘密曼荼羅界會者當相即道之密探一體
三衍欲覽眼睹昂事而真之玄趣兩權二實將聽耳
聾實惟金幢金輪共住月殿紅寶綠寶各處華臺乍
怒相乍慈容齊彰法然之體德云除難云療病悉施

揭焉之威靈國泰人娛併由三等之加被雲行雨施
乃是五大之周流性相之尊高也尼吒尚非其頂義
利之寬廣也沒特豈窮厥邊密藏難思蓋以如此粵
本朝高祖大遍照金剛者天降貴物翩翩之梵儀直
入夢魂地育神童巍巍之蓮座常接尊特是故於其
嬉戲也天王執蓋國使下鞍於其遊聽也師儒傳經
高僧授呪躋南嶺而鍊觀忽感明星之入西門游上
空而現文頓退怪物之現形影遂乃解纜本國陵暴
風於羅刹之津負笈中州溫真教于瑜伽之藪神筆
驅造化五支之能播譽于李唐堅誓達邊隅三股之

自家不共之深義忽同權佛無相之諦理恐未

免大師先哲之責今以返壁慶範閣黎同日

探心一軸信能言可惜攀枝未盡根本有通衢久捺

塞勿將焉取泥空門

觀心寺恒例祖師忌辰曼荼羅供誦經表白

三月十日

夫兩部秘密曼荼羅界會者當相即道之密探一體

三衍欲覽眼睹昂事而真之玄趣兩權二實將聽耳

聾實惟金幢金輪共住月殿紅寶綠寶各處華臺乍

怒相乍慈容齊彰法然之體德云除難云療病悉施

揭焉之威靈國泰人娛併由三等之加被雲行雨施
乃是五大之周流性相之尊高也尼吒尚非其頂義
利之寬廣也沒特豈窮厥邊密藏難思蓋以如此粵
本朝高祖大遍照金剛者天降貴物翩翩之梵儀直
入夢魂地育神童巍巍之蓮座常接尊特是故於其
嬉戲也天王執蓋國使下鞍於其遊聽也師儒傳經
高僧授呪躋南嶺而鍊觀忽感明星之入西門游上
空而現文頓退怪物之現形影遂乃解纜本國陵暴
風於羅刹之津負笈中州溫真教于瑜伽之藪神筆
驅造化五支之能播譽于李唐堅誓達邊隅三股之

奇ト迹ヲ於金嶽自爾已降本有本覺之佛日高輝鳥
卯之虛頓證直證之慧燈朗照馬臺之夜凡夫泛泛
支派莫不涵泳德涯濟濟末枝咸皆承攬余烈（ヒカ）一ヲ粵ニ當
寺者曩祖相宅七佛鎔金七星降臨大德續功三尊
奉殿三密興盛法性法尔寶塔傳萬古之絕珍神通
神變聖僧洽百代之巨利是以聖朝歷代傾歡信而
竭資武臣數家凝懇篤以施地至今占禪窟占禪坐
轉法輪轉食輪並皆鴻恩之使然也豈其微志之應
報乎因茲一山大衆等點每年今日之忌景開二界
之聖容供理蓮智月之尊儀酬三地之廣德丹棘是

奇ト迹ヲ於金嶽自爾已降本有本覺之仏日高輝鳥
卯之虚頓證直證之慧燈朗照馬臺之夜凡夫泛泛
支派莫不涵泳德涯濟濟末枝咸皆承攬余烈（ヒカ）一ヲ粵ニ當
寺者曩祖相宅七佛鎔金七星降臨大德續功三尊
奉殿三密興盛法性法尔寶塔傳萬古之絶珍神通
神變聖僧洽百代之巨利是以聖朝歷代傾歡信而
竭資武臣數家凝懇篤以施地至今占禪窟占禪坐
轉法輪轉食輪並皆鴻恩之使然也豈其微志之應
報乎因茲一山大衆等點每年今日之忌景開二界
之聖容供理蓮智月之尊儀酬三地之廣德丹棘是

盡有聖盃歆況復斯法會者律師遺寄齋田衆僧果
遂夙願民庶欣奔際會士女隨喜好心然乃先亡幽
魂密嚴國之天朗常明之覺月華藏海之浪洗忽生
之妄塵觀夫衆花競光相好之色溢目亂山吐翠功
德之林集眸物華自然契當悉地條尔成就方今三
下鯨響發三曳之妙聲六趣蠢民證六大之極位乃
至滿寺安穩人法紹隆四海康寧黎庶豐樂敬白
某閣衆求壽影贊四月三日
總夫羣動為三業吞彼衆形滿一身無道丹青何所
元來天地悉精神

盡有聖盃歆況復斯法會者律師遺寄齋田衆僧果
遂夙願民庶欣奔際會士女隨喜好心然乃先亡幽
魂密嚴國之天朗常明之覺月華藏海之浪洗忽生
之妄塵觀夫衆花競光相好之色溢目亂山吐翠功
德之林集眸物華自然契當悉地條尔成就方今三
下鯨響發三曳之妙聲六趣蠢民證六大之極位乃
至滿寺安穩人法紹隆四海康寧黎庶豐樂敬白
某閣衆求壽影贊四月三日
總夫羣動為三業吞彼衆形滿一身無道丹青何所
元來天地悉精神

乙丑夏予僑居東武牛込多聞院裏因學徒之
需講說祕教數卷自季夏之始以至中秋以苦
思既多心胸痞悶又屢被瘴霧頭重眼昏懶于
談論十數日于茲今宵天陰志氣亦不暢臥於
帳中口占一首
幾家欄檻訴金風佳節雖催趣不同我苦江都多瘴
霧人心月影共朦朧二二更後晴好
九日
蕭條林寺絕誼譁況是晴明景色多競道重陽吾未
信不觀黃菊一枝花江都今年菊未發故雖九日不賞不見

病中偶作 九月
老身抱病臥江城煩悶元從瘴濕生陽射紙牕眼猶
暗火升頭頂耳恒鳴雙魚時報一天外賓鴈曉悲萬
里情曩日講場人絡繹而今無復法雷轟
又十月六日
版屋雨衝成我災殷勤添却耳中雷勞心白日猶朦
昧病眼青天未豁開藥餌鑊中多少味夢魂燈下幾
千回旋加艾炷欲強健多汗棉衣垢作堆
綿帽贈妙嚴子十一月二十四日嚴子在大坂學經史
津城多逸遊唯欠接公侯若得定中味自成閑處幽

乙丑ノ夏予僑居ス東武牛込多聞院裏ニ因テ學徒ノ之
需メニ講說スルコト祕教ニ數卷自ニ季夏之始一以至ニ中秋一以ニ苦
思既ニ多ニ心胸痞悶又屢被ニ瘴霧ニ頭ヘ重ク眼ゴ昏シコト于
談論ニ十數日于茲ニ今宵天陰志氣亦不レ暢臥シテ於
帳中ニ口占一首
幾家欄檻・恨訴フ金風一佳節雖催趣不_レ同我苦江都ノ多ニ瘴
霧一人心月影共ニ朦朧タルコト二二更後晴好
九日
蕭條タル林寺絶ス誼譁一況ヤ是晴明ニシテ景色ノ多キヲヤ競道ニ重陽ト吾レ未
信セ不レハナリ觀ニ黃菊一枝ノ花一故雖九日不_レ賞不見

病中ノ偶作 九月
老身抱病ヲ臥ス江城ニ煩悶元ト從ニ瘴濕一一生陽射ニ紙牕一ニ眼猶
暗ク火升テ頭頂ニ耳恒ニ鳴ル雙魚ノ時報ス一天外賓鴈曉悲ハム萬
里ノ情曩日講場人絡繹ス而今無シ復タ法雷ノ轟一
又十月六日
版屋雨衝成我災一殷勤ニ添却ス耳中ノ雷勞心白日猶朦
昧病眼青天未ニ豁開一藥餌鑊中多少味ヒ夢魂燈下幾
千回ソ旋加ヘテ艾炷一欲ニ強健一多_レ汗棉衣垢作_レ堆
綿帽贈ニ妙嚴子ニ十一月二十四日嚴子在大坂ニ學_レ經史
津城多ニ逸遊唯欠_レ接ニ公侯ニ若得ニ定中ノ味一自成ニ閑處ノ幽一

有勞學而習無績死寧休寥廓一心帽普籠法界頭

江戶市谷光德院觀音閣建立供養并安像慶

讚理趣三昧表白 十二月十五日

敬白真言教主三世常住淨妙法身摩訶毘盧遮那
如來金剛界會三十七尊九會曼荼羅諸尊聖衆并
大悲胎藏八葉蓮臺十三大院塵刹聖衆殊本尊大
聖大慈大悲觀自在尊補陀洛界會諸大眷屬本朝
高祖弘法大師三國傳燈諸大阿闍黎耶總佛眼所
照帝網錠光不可說不可量四曼三寶境界而言夫
本尊海會千手大薩埵者等覺無垢之開士濁世末

法之導師智德之高猶山峯羅睺何曾見頭頂弘誓
之深如溟海難陀不克測邊涯加旃伊尼延鹿之肩
荷擔十方刹之機類薈波迦花之色超勝十八梵之
身相實惟無量億劫之前修菩薩道千光王佛之世
積瑜伽行受持大陀羅尼之時初地超八地行願圓
滿利樂一切衆生之誓千手并千眼具足出生況復
住于布咀洛山二十八部仰命隨逐遊於娑婆世界
三十三身赴感現應遂使毗舍離城之疫鬼神被光
照而去境波羅奈國之長者子歸神呪而延齡又有
大千界魔怨結密印則摧伏五無間罪障念神呪頓

有勞學而習無績死寧休寥廓一心帽普籠法界頭

江戶市谷光德院觀音閣建立供養并安像慶

讚理趣三昧表白 十二月十五日

敬白真言教主三世常住淨妙法身摩訶毘盧遮那
如來金剛界會三十七尊九會曼荼羅諸尊聖衆并
大悲胎藏八葉蓮臺十三大院塵刹聖衆殊本尊大
聖大慈大悲觀自在尊補陀洛界會諸大眷屬本朝
高祖弘法大師三國傳燈諸大阿闍黎耶總佛眼所
照帝網錠光不可說不可量四曼三寶境界而言夫
本尊海會千手大薩埵者等覺無垢之開士濁世末

法之導師智德之高猶山峯羅睺何曾見頭頂弘誓
之深如溟海難陀不克測邊涯加旃伊尼延鹿之肩
荷擔十方刹之機類薈波迦花之色超勝十八梵之
身相實惟無量億劫之前修菩薩道千光王佛之世
積瑜伽行受持大陀羅尼之時初地超八地行願圓
滿利樂一切衆生之誓千手并千眼具足出生況復
住于布咀洛山二十八部仰命隨逐遊於娑婆世界
三十三身赴感現應遂使毗舍離城之疫鬼神被光
照而去境波羅奈國之長者子歸神呪而延齡又有
大千界魔怨結密印則摧伏五無間罪障念神呪頓

消除專念稱名之人七難三毒不掃蕩盡禮拜供養之族二求兩願不日圖成凡厥善權不可得盡專此寶閣者昔年也祝融成害薨桷枅拱變灰今茲也輪奐復先棟梁椽柱瑩玉方今奉尊容而設慶讚儀則肆法筵以建祕密壇場旛旗聯翩四攝利物宛然在目供具陳列六度妙行法爾契真梵唄梵讚之雅音傳響恒利可見可聞之妙趣及益羣生然乃法澤無窮遠期阿逸多之曉佛閣不朽遙至毘陀劫之終別復護持法主法體安寧指山嶽以為比慧命長遠引松椿而為儔乃至三千十方咸蒙大悲之潤無間有

頂洽覆鴻慈之雲敬言

貞亨三丙寅年 行年四十八

武州豐島郡高田八幡宮放生寺庭儀灌頂歎

德表白 予為阿闍梨 放生寺主宗洗并本如 為受者前住密藏院深說房實清為歎

德師三 月七日

金剛乘佛子等異口同音白言夫灌頂曼荼羅軌則者阿迦尼吒天覺王受禪之佛業魔醯首羅殿法帝登極之梵儀然乃四八安車將爭列則軸折輻脫三一泛駕欲並驅則轡斷馬瘡語厥高大也蘇迷何儔論其宏深也麼噓豈比教法尊勝蓋以如斯伏惟現

消除專念稱名之人七難三毒不掃蕩盡禮拜供養之族二求兩願不日圖成凡厥善權不可得盡專此寶閣者昔年也祝融成害薨桷枅拱變灰今茲也輪奐復先棟梁椽柱瑩玉方今奉尊容而設慶讚儀則肆法筵以建祕密壇場旛旗聯翩四攝利物宛然在目供具陳列六度妙行法爾契真梵唄梵讚之雅音傳響恒利可見可聞之妙趣及益羣生然乃法澤無窮遠期阿逸多之曉佛閣不朽遙至毘陀劫之終別復護持法主法體安寧指山嶽以為比慧命長遠引松椿而為儔乃至三千十方咸蒙大悲之潤無間有

頂洽覆鴻慈之雲敬言

貞亨三丙寅年 行年四十八

武州豐島郡高田八幡宮放生寺庭儀灌頂歎

德表白 予為阿闍梨 放生寺主宗洗并本如 為受者前住密藏院深說房實清為歎

德師三 月七日

金剛乘佛子等異口同音白言夫灌頂曼荼羅軌則者阿迦尼吒天覺王受禪之佛業魔醯首羅殿法帝登極之梵儀然乃四八安車將爭列則軸折輻脫三一泛駕欲並驅則轡斷馬瘡語厥高大也蘇迷何儔論其宏深也麼噓豈比教法尊勝蓋以如斯伏惟現

前大阿闍梨耶天縱含弘誨人諄諄終日不倦地育
勇進切己孜孜累歲克勤是故或顯乘或密乘縉白
濡其洪化云戒學云慧學都鄙傳夫英聲誠是達磨
箴規民具瞻父瑜伽模範師固當仁粵兩受者新阿
闍梨耶在俗則為壞魔友順之性不相相和入真則
像冰冰授受之功無外化是以貫華散華之文學
之綽有餘裕篤信篤行之美生而不讓于他加旃同
餐南印之珍羞久嘗醍醐之異味共汲東寺之的派
深鉤安祥之太玄遂使疇昔受三昧之木叉了迷悟
之無本末今朝收兩部之果實達因果之齊熟生因

茲十數禪侶等且羨德本之夙熏且崇覺位之已冊
咸陳稽顙之敬禮人盡低頭之懇誠

返答

弟子某甲等撰檄最品誤入梅檀之林燕雀小才枉
負象馬之任所愧其責已重其德逾輒是故恭以諸
德之拜儀奉讓三寶之聖境

同時諷誦文

原夫小乘登壇越界得果之捷徑徑不空表製集聲聞
薩大士灌頂法門越界出過三界不空登壇學處聲聞
果捷徑徑屈原離騷何桀紂之昌被今夫唯以
出也徑小路也大士灌頂製先引從凡入佛之坦

前大阿闍梨耶天縱含弘誨人諄諄終日不倦地育
勇進切己孜孜累歲克勤是故或顯乘或密乘縉白
濡其洪化云戒學云慧學都鄙傳夫英聲誠是達磨
箴規民具瞻父瑜伽模範師固當仁粵兩受者新阿
闍梨耶在俗則為壞魔友順之性不相相和入真則
像冰冰授受之功無外化是以貫華散華之文學
之綽有餘裕篤信篤行之美生而不讓于他加旃同
餐南印之珍羞久嘗醍醐之異味共汲東寺之的派
深鉤安祥之太玄遂使疇昔受三昧之木叉了迷悟
之無本末今朝收兩部之果實達因果之齊熟生因

茲十數禪侶等且羨德本之夙熏且崇覺位之已冊
咸陳稽顙之敬禮人盡低頭之懇誠

返答

弟子某甲等撰檄最品誤入梅檀之林燕雀小才枉
負象馬之任所愧其責已重其德逾輒是故恭以諸
德之拜儀奉讓三寶之聖境

同時諷誦文

原夫小乘登壇越界得果之捷徑徑不空表製集聲聞
薩大士灌頂法門越界出過三界不空登壇學處聲聞
果捷徑徑屈原離騷何桀紂之昌被今夫唯以
出也徑小路也大士灌頂製先引從凡入佛之坦

途^ト善提心論^ニ曰復修瑜伽勝上^ハ法^ヲ人^ハ能^ク從^テ凡^ハ入^ル佛位^ニ
途^ト者^ハ東坡^ノ太行路^ニ太行之路^ヲ能^ク推^テ車^ヲ若^シ比^テ君^ノ心^ハ是^レ
途^ト衆乘^ノ之所^ニ不^レ窺^レ諸佛^ノ之所^ニ未^レ證^レ得^レ誠^ニ有^ル所以^ハ乎^ニ
哉^ニ衆乘^ノ者^ハ四家^ノ大乘^ノ諸佛^ノ經^ニ說^テ大教^ヲ王經^ニ若^シ見^ル壇場^ヲ
之^ハ屬^ス消滅^ノ罪根^ヲ於^ニ須臾^ニ纔^ニ受^テ印明^ノ之人^ハ免^ス離^ス苦果^ヲ于^ニ
劫跛^ニ于^ニ茲某^ノ甲陰德^ニ云^ハ今^ハ入^ル性佛^ノ之^ハ三昧^ニ耶^ニ陽報^ヲ
薦^ニ臻^ニ許^ニ傳^ニ法^ニ今^ハ之^ハ兩部^ノ教^ヲ且^ニ又^ニ延^ニ屈^ニ龍象^ノ淨衆^ノ方^ニ則^ニ
武夷^ノ之^ハ悲壇^ニ引^ニ攝^ニ犬馬^ノ凡人^ヲ將^ニ擬^ニ汴州^ノ之^ハ嘉會^ニ劫跛^ヲ
劫^ニ比^ニ云^ハ分^ニ別^ニ時^ニ節^ニ賈^ニ誼^ニ新^ニ書^ニ曰^ハ孫叔敖^ノ母^ハ曰^ハ夫^ハ有^ル
陰德^ハ必^ニ有^ル陽報^ニ爾^ハ無^レ憂^ニ也^ニ龍象^ハ水行^ニ龍力^ハ大^ニ陸行^ニ
象力^ハ大^ニ今^ハ喻^ニ法門^ノ之^ハ將^ニ武夷^ハ歌舒翰^ノ請^ニ不^レ空^ニ三藏^ノ
建壇^ノ授^ニ法^ニ之^ハ處^ニ汴州^ノ辯弘^ハ和尚^ノ授^ニ灌頂^ノ之^ハ所^ニ
利^ニ身^ノ之^ハ鉅大^ノ雀躍^ニ不堪^ニ益^ニスル^{コト}物^ノ之^ハ宏深^ニ羊心^ハ盃^ニ懽^ニ懽^ニ孟子^ノ
梁^ノ惠^ノ

途^ト善提心論^ニ曰復修瑜伽勝上^ハ法^ヲ人^ハ能^ク從^テ凡^ハ入^ル佛位^ニ
途^ト者^ハ東坡^ノ太行路^ニ太行之路^ヲ能^ク推^テ車^ヲ若^シ比^テ君^ノ心^ハ是^レ
途^ト衆乘^ノ之所^ニ不^レ窺^レ諸佛^ノ之所^ニ未^レ證^レ得^レ誠^ニ有^ル所以^ハ乎^ニ
哉^ニ衆乘^ノ者^ハ四家^ノ大乘^ノ諸佛^ノ經^ニ說^テ大教^ヲ王經^ニ若^シ見^ル壇場^ヲ
之^ハ屬^ス消滅^ノ罪根^ヲ於^ニ須臾^ニ纔^ニ受^テ印明^ノ之人^ハ免^ス離^ス苦果^ヲ于^ニ
劫跛^ニ于^ニ茲某^ノ甲陰德^ニ云^ハ今^ハ入^ル性佛^ノ之^ハ三昧^ニ耶^ニ陽報^ヲ
薦^ニ臻^ニ許^ニ傳^ニ法^ニ今^ハ之^ハ兩部^ノ教^ヲ且^ニ又^ニ延^ニ屈^ニ龍象^ノ淨衆^ノ方^ニ則^ニ
武夷^ノ之^ハ悲壇^ニ引^ニ攝^ニ犬馬^ノ凡人^ヲ將^ニ擬^ニ汴州^ノ之^ハ嘉會^ニ劫跛^ヲ
劫^ニ比^ニ云^ハ分^ニ別^ニ時^ニ節^ニ賈^ニ誼^ニ新^ニ書^ニ曰^ハ孫叔敖^ノ母^ハ曰^ハ夫^ハ有^ル
陰德^ハ必^ニ有^ル陽報^ニ爾^ハ無^レ憂^ニ也^ニ龍象^ハ水行^ニ龍力^ハ大^ニ陸行^ニ
象力^ハ大^ニ今^ハ喻^ニ法門^ノ之^ハ將^ニ武夷^ハ歌舒翰^ノ請^ニ不^レ空^ニ三藏^ノ
建壇^ノ授^ニ法^ニ之^ハ處^ニ汴州^ノ辯弘^ハ和尚^ノ授^ニ灌頂^ノ之^ハ所^ニ
利^ニ身^ノ之^ハ鉅大^ノ雀躍^ニ不堪^ニ益^ニスル^{コト}物^ノ之^ハ宏深^ニ羊心^ハ盃^ニ懽^ニ懽^ニ孟子^ノ
梁^ノ惠^ノ

王^ハ曰^ハ士庶人^ハ曰^ハ何以^ニ利^ニ吾身^ニ雀躍^ハ莊子^ノ在^ニ宥^ニ子鴻濛^ノ
方^ヲ將^ニ拊^ニ髀^ニ一^ニ而^ニ遊^ニ大^ニ日^ニ經^ニ曰^ハ愚童^ハ凡^ハ夫^ハ類^ハ猶^ハ如^シ
羊^ハ然^ニ乃^ハ無^レ不^レ錢^ニ湯鑪炭^ノ歟^ニ然^ニ冰^ノ銷^ハ銅柱^ノ鉄牀^ノ俄頃^ニ瓦^ノ
解^ハ使^ニ得^ニ果^ニ脣^ニ蓮^ニ眼^ニ當^ニ生^ニ忽^ニ開^ニ烏^ノ瑟^ノ白^ノ毫^ノ將^ニ來^ニ頓^ニ證^ニ花^ノ
經^ニ云^ハ脣^ハ赤^ニ好^ニ如^ニ頻^ニ婆^ノ果^ノ蓮^ハ花^ノ部^ノ大^ニ悲^ニ德^ニ主^ノ鉢^ノ
眼^ハ故^ニ云^ハ烏^ノ瑟^ノ尼^ノ沙^ノ頂^ノ相^ニ也^ニ白^ハ毫^ハ在^ニ眉^ノ間^ニ放^ニ光^ニ繇^ニ
薄^ニ捧^ニ菲^ニ物^ニ恭^ニ標^ニ卑^ニ誠^ニ仰^ニ祈^ニ金^ノ身^ノ焰^ノ亮^ノ丹^ノ腑^ノ敬^ニ白^ニ如^シ金^ノ
色^ノ身^ノ

點陀羅尼集經^ヲ六月十七日
矮屋炎天頭似^ニ焚^ニ汗^ニ流^ニ哀^ニ濕^ニ單^ニ裙^ニ若^シ非^ニ興^ニ法^ニ利^ニ生^ニ
事^ハ誰^ハ不^レ施^ニ斯^ニ勞^ニ處^ニ勲^ニ
書同經^ノ第四卷^ノ觀音^ノ後^ニ六月十八日

王^ハ曰^ハ士庶人^ハ曰^ハ何以^ニ利^ニ吾身^ニ雀躍^ハ莊子^ノ在^ニ宥^ニ子鴻濛^ノ
方^ヲ將^ニ拊^ニ髀^ニ一^ニ而^ニ遊^ニ大^ニ日^ニ經^ニ曰^ハ愚童^ハ凡^ハ夫^ハ類^ハ猶^ハ如^シ
羊^ハ然^ニ乃^ハ無^レ不^レ錢^ニ湯鑪炭^ノ歟^ニ然^ニ冰^ノ銷^ハ銅柱^ノ鉄牀^ノ俄頃^ニ瓦^ノ
解^ハ使^ニ得^ニ果^ニ脣^ニ蓮^ニ眼^ニ當^ニ生^ニ忽^ニ開^ニ烏^ノ瑟^ノ白^ノ毫^ノ將^ニ來^ニ頓^ニ證^ニ花^ノ
經^ニ云^ハ脣^ハ赤^ニ好^ニ如^ニ頻^ニ婆^ノ果^ノ蓮^ハ花^ノ部^ノ大^ニ悲^ニ德^ニ主^ノ鉢^ノ
眼^ハ故^ニ云^ハ烏^ノ瑟^ノ尼^ノ沙^ノ頂^ノ相^ニ也^ニ白^ハ毫^ハ在^ニ眉^ノ間^ニ放^ニ光^ニ繇^ニ
薄^ニ捧^ニ菲^ニ物^ニ恭^ニ標^ニ卑^ニ誠^ニ仰^ニ祈^ニ金^ノ身^ノ焰^ノ亮^ノ丹^ノ腑^ノ敬^ニ白^ニ如^シ金^ノ
色^ノ身^ノ

點陀羅尼集經^ヲ六月十七日
矮屋炎天頭似^ニ焚^ニ汗^ニ流^ニ哀^ニ濕^ニ單^ニ裙^ニ若^シ非^ニ興^ニ法^ニ利^ニ生^ニ
事^ハ誰^ハ不^レ施^ニ斯^ニ勞^ニ處^ニ勲^ニ
書同經^ノ第四卷^ノ觀音^ノ後^ニ六月十八日

弥陀觀世音元是一胸襟不拒惡邪族却甘極重任
圓通空尚窄弘誓海何深三毒吾家寶四魔誰被侵
慈悲雲鬘鬘功德樹蕭森日日剛升座宵宵精用心
梵經流李世豈但滿籠金

書同經第七卷後六月廿六日

佛日逾增耀祕輪倍轉州羣生斯倚賴我輩願勤修
同入一阿字共消万劫憂蓮花臺藏界自在永優游

書同經第八卷後六月廿八日

願諸大慧執金剛煥炳炎明照十方實智刀并權巧
索四魔三毒一時亡

書同經第十一卷後今日先師良意忌辰故
佛恩罔極昊天悠師德甚深誰得饒今日將斯微少
善咸廻同證菩提謀

書同經第十三卷後七月九日

遮那慧日恒時耀瞿囑法輪長劫轉威使蠢蠢諸有
識齊通万象本不生此云祕密

書十一面儀軌後十月十四日

南無十一面觀音灵感威光絕古今無物能容盡空
腹有緣即赴大悲心

書如意輪瑜伽後十月二十日夜

弥陀觀世音元是一胸襟不拒惡邪族却甘極重任
圓通空尚窄弘誓海何深三毒吾家寶四魔誰被侵
慈悲雲鬘鬘功德樹蕭森日日剛升座宵宵精用心
梵經流李季世豈但滿籠金

書同經第七卷後六月廿六日

佛日逾增耀祕輪倍轉州羣生斯倚賴我輩願勤修
同入一阿字共消万劫憂蓮花臺藏界自在永優游

書同經第八卷後六月廿八日

願諸大慧執金剛煥炳炎明照十方實智刀并權巧
索四魔三毒一時亡

書同經第十一卷後今日先師良意忌辰故
佛恩罔極昊天悠師德甚深誰得饒今日將斯微少
善咸廻同證菩提謀

書同經第十三卷後七月九日

遮那慧日恒時耀瞿囑法輪長劫轉威使蠢蠢諸有
識齊通万象本不生此云祕密

書十一面儀軌後十月十四日

南無十一面觀音灵感威光絕古今無物能容盡空
腹有緣即赴大悲心

書如意輪瑜伽後十月二十日夜

四重、五無間、積高、於泰山、希將瞿、力、脫彼、奈、犂、難、忍、土、塵、埃、聚、樂、邦、日、月、間、本、然、阿、字、閣、早、共、有、生、還、點、如意輪念誦儀軌、同十九日夕
大悲、如意輪、無利、不、分身、豈、西方、界、亦、輝、南海、濱、雖、同、流、轉、妄、寧、背、本、源、真、自、性、淨、心、地、化、生、日、日、新、點、一字、奇特、佛、頂、經、七月廿二日
輪王、佛、頂、巨、思、議、万、億、真、言、歸、一、字、蚊、蚋、雖、無、負、妙、高、金、堤、亦、自、蟻、壞、毀、又、同、廿、三日
昔日、從、師、親、受、傳、今、垂、絳、帳、強、弘、宣、擴、充、一、字、周、沙

四重ト五無間 積高ニシテ泰山ニヨリモ 希クハ將瞿ノ力ニテ 脱ニシテ 彼ノ奈、犂、難、忍、土、塵、埃、聚、樂、邦、日、月、間、本、然、阿、字、閣、早、共、有、生、還、點、如意輪念誦儀軌、同十九日夕
大悲、如意輪、無利、不、分身、豈、西方、界、亦、輝、南海、濱、雖、同、流、轉、妄、寧、背、本、源、真、自、性、淨、心、地、化、生、日、日、新、點、一字、奇特、佛、頂、經、七月廿二日
輪王、佛、頂、巨、思、議、万、億、真、言、歸、一、字、蚊、蚋、雖、無、負、妙、高、金、堤、亦、自、蟻、壞、毀、又、同、廿、三日
昔日、從、師、親、受、傳、今、垂、絳、帳、強、弘、宣、擴、充、一、字、周、沙

界、沾、溉、何、曾、限、大千、日輪大師、贊、駿、府、若、商、的、場、源、七、求、焉、大日金剛、遍、照、尊、飛、輝、陽、谷、導、黎、元、苦、驚、三、界、狂、迷、客、速、返、一、心、真、實、源、塵、刹、包、羅、懷、噉、滴、身、聚、集、德、渾、渾、明、師、光、被、無、私、照、孰、報、吳、天、罔、極、恩、武、府、牛、罩、鄉、多、聞、院、主、覺、英、去、歲、冬、夢、弥、陀、如、來、乘、一、扁、舟、浮、于、大、洋、一、如、意、珠、泛、于、波、上、覺、而、圖、之、索、贊、于、予、煩、惱、海、中、浮、願、船、隨、時、隨、處、度、機、緣、夢、竟、賜、與、摩、尼、寶、衆、德、周、輪、一、顆、圓、

界ニ 沾溉何ソ曾限ニ 大千ニ 日輪大師ノ贊 駿府ノ若商、的、場、源、七、求、焉、大日金剛、遍、照、尊、飛、輝、陽、谷、導、黎、元、苦、驚、三、界、狂、迷、客、速、返、一、心、真、實、源、塵、刹、包、羅、懷、噉、滴、身、聚、集、德、渾、渾、明、師、光、被、無、私、照、孰、報、吳、天、罔、極、恩、武、府、牛、罩、鄉、多、聞、院、主、覺、英、去、歲、冬、夢、弥、陀、如、來、乘、一、扁、舟、浮、于、大、洋、一、如、意、珠、泛、于、波、上、覺、而、圖、之、索、贊、于、予、煩、惱、海、中、浮、願、船、隨、時、隨、處、度、機、緣、夢、竟、賜、與、摩、尼、寶、衆、德、周、輪、一、顆、圓、

書不空羅索經第三後十月之晦

不空羅索信玄玄神呪演時震大千無盡度門三密
備過恒妙用一言圖幸欣今日貧逢寶且喜當來渡
得船將我菲才漫訓解希廻冒地結親緣

又書第六卷後仲冬之朔

不空真寶明非世戲論聲觀誦三麻妙修持八索精
倏然超覺地本自住心城生遇甚深教益希速疾成

三摩地梵名華言等持平等持心使住一境麻摩
音同爲對八索耳八索者此經五十六兩卷說成八
種索之法故也

又書第十卷後同日

書不空羅索經第三後二十月之晦

不空羅索信玄玄神呪演時震大千無盡度門三密
備過恒妙用一言圖幸欣今日貧逢寶且喜當來渡
得船將我菲才漫訓解希廻冒地結親緣

又書第六卷後仲冬之朔

不空真寶明非世戲論聲觀誦三麻妙修持八索精
倏然超覺地本自住心城生遇甚深教益希速疾成

三摩地梵名華言等持平等持心使住一境麻摩
音同爲對八索耳八索者此經五十六兩卷說成八
種索之法故也

又書第十卷後同日

金銀鍮石香四種示真相經第九品圖像罪根拔第十
品造壇苦果亡第十護摩開寶殿第七毗曬梵語建
金場明月輝心處諸識悉舒光第八

又書第十四卷後同日

大梵天相寶髻冠心淵德海湛波瀾證修歷歷六無
畏光焰熒熒三部觀妙義恒沙收字畫善權億萬絕
毫端何圖斯事甚希有至三更不識寒

又書第十九卷後同日

大哉觀世音神化十方臨勝絕蓮華頂第三幽玄胃
索心稱名愆咎盡持咒鬼神欽將拾菩提果向斯衆

金銀鍮石香四種示真相經第九品圖像罪根拔第十
品造壇苦果亡第十護摩開寶殿第七毗曬梵語建
金場明月輝心處諸識悉舒光第八

又書第十四卷後同日

大梵天相寶髻冠心淵德海湛波瀾證修歷歷六無
畏光焰熒熒三部觀妙義恒沙收字畫善權億萬絕
毫端何圖斯事甚希有至三更不識寒

又書第十九卷後同日

大哉觀世音神化十方臨勝絕蓮華頂第三幽玄胃
索心稱名愆咎盡持咒鬼神欽將拾菩提果向斯衆

德林

又書第二十三後十一月十八

輪擲三千尚未難相逢斯典此為艱經遊沙界路程
遠吞納刹塵海樣寬跋躋盲聾過當日天龍神鬼衛
闌干愧無堅固勇勤力空度生涯不得安

書一字頂輪王時處軌後中秋

輪王大教甚淵深万丈縷繩難得斟昔日搜幽求海
寶今年闌與發天琛生盲何見夜途斗癡漢看亡霧
野針一曲陽春和逾寡唯聞百鳥噪寒林
知足院主隆光將軍有旨授僧正免輪役置四

大寺之上猶南禪之為五山之上贈線香一束

而賀焉十二月一日

名實相兼誰敢倖聖君具眼擢羣尤香條一束託標
法明德維馨七十州

夜風而火因而口占

江戶北風急霾塵雜雪飛長空變暝色愛日失光輝
回祿災何許鼓鐘響尚微女兒惟要遁重疊著綿衣
貞享四丁卯年行年四十九

書文殊五字瑜伽法後正月廿五日

何人加梵文梵文多謬誤不知我多過却謂為典據

德林

又書第二十三後十一月十八

輪擲三千尚未難相逢斯典此為艱經遊沙界路程
遠吞納刹塵海樣寬跋躋盲聾過當日天龍神鬼衛
闌干愧無堅固勇勤力空度生涯不得安

書一字頂輪王時處軌後中秋

輪王大教甚淵深万丈縷繩難得斟昔日搜幽求海
寶今年闌與發天琛生盲何見夜途斗癡漢看亡霧
野針一曲陽春和逾寡唯聞百鳥噪寒林
知足院主隆光將軍有旨授僧正免輪役置四

大寺之上猶南禪之為五山之上贈線香一束

而賀焉十二月一日

名實相兼誰敢倖聖君具眼擢羣尤香條一束託標
法明德維馨七十州

夜風而火因而口占

江戶北風急霾塵雜雪飛長空變暝色愛日失光輝
回祿災何許鼓鐘響尚微女兒惟要遁重疊著綿衣
貞享四丁卯年行年四十九

書文殊五字瑜伽法後正月廿五日

何人加梵文梵文多謬誤不知我多過却謂為典據

悲乎皆如斯、丘陵變成坎、努力二三子、約取自博覽、
示義鞭禪人、

孔

大毗盧遮那神變加持經云、阿字門一切諸法本不生、故本不生者、顯於何義、謂色心因果善惡諸法本來不生、終亦不滅、歷歷分明、一一各自具足衆德、周備萬德、圓融無碍、相應涉入、雖言彼此同如、而亦自他宛然、請君至此緊切著力、一旦豁然、眼下現前、淨裸裸赤洒洒、方始得稱過量大人、豈不勉旃、

和答武州和戸西方院主良運遮黎見賀予自野之下州日光山而歸路之次士女爭奔沾于法化、五月

心等大虛空地、并水火風錯、尋求異處、豈識在斯躬、踏遍都還鄙、謾欺西復東、大慙吾德薄、未與導王公、其二

我本河南產、師居函塞、東人心自高下、大道豈窟隆、

弘法大師贊、五月廿九日

雋才睿思、單虛衝天、毗盧法印、直指單傳、擊上乘鼓、震響大千、凡百繼燈、莫不卷旃、

悲乎皆如斯、丘陵變成坎、努力二三子、約取自博覽、
示義鞭禪人、

孔

大毘盧遮那神變加持經云、阿字門一切諸法本不生、故本不生者、顯於何義、謂色心因果善惡諸法本來不生、終亦不滅、歷歷分明、一一各自具足衆德、周備萬德、圓融無碍、相應涉入、雖言彼此同如、而亦自他宛然、請君至此緊切著力、一旦豁然、眼下現前、淨裸裸赤洒洒、方始得稱過量大人、豈不勉旃、

和答武州和戸西方院主良運遮黎見賀予自野之下州日光山而歸路之次士女爭奔沾于法化、五月

心等大虛空地、并水火風錯、尋求異處、豈識在斯躬、踏遍都還鄙、謾欺西復東、大慙吾德薄、未與導王公、其二

我本河南產、師居函塞、東人心自高下、大道豈窟隆、

弘法大師贊、五月廿九日

雋才睿思、單虛衝天、毗盧法印、直指單傳、擊上乘鼓、震響大千、凡百繼燈、莫不卷旃、

又 十月八日

扶桑佛法、一英雄、二教并吞、氣似虹、支派而今流海、
微誰爭、艸創密宗功、

六角孫九郎廣治、者烏丸亞相光廣、法雲院
天翁宗山
之孫也、今入幕府、為本庄因守之女婿、丁卯七
月六日、丁乎祖之五十回忌辰、因茲請供百餘
淨侶、薦彼冥福、予皆授瑜伽乎諸徒、蓋就安祥
寺之流、此寺先德與藤氏締于法盟、廣治殊有
感、于茲頻請一偈、故書贈焉、七月六日
溫如春日、大明神引攝不空羅索、均槐棘古今枝蔭

又 十月八日

扶桑佛法、一英雄、二教并吞、氣似虹、支派而今流海、
微誰爭、艸創密宗功、

六角孫九郎廣治、者烏丸重相光広、法雲院
天翁宗山
之孫也、今入幕府、為本庄因守之女婿、丁卯七
月六日、丁乎祖之五十回忌辰、因茲請供百餘
淨侶、薦彼冥福、予時授瑜伽乎諸徒、蓋就安祥
寺之流、此寺先德與藤氏締于法盟、廣治殊有
感、于茲頻請一偈、故書贈焉、七月六日
溫如春日、大明神引攝不空羅索、均槐棘古今枝蔭

㊦ 29

藤藤、蔓南北葉、纂百僧、設供俸、香積三佛念持、歸

法身、五十回辰念、其祖、冀資冥福、濟此淪

元祿元戊辰年、行年五十歲

弘法大師贊、正月二十四日

尼吒天宮遍照尊、發光日本燭、黎元結壇持呪、護家
國千古風流、今尚存

傳法灌頂後朝嘆德、表白戊辰春
浦西國寺主密照灌

頂之時予為大阿
闍黎、妙嚴勤之

金剛乘佛子等、異口同音、白言、夫惟三昧耶戒軌、即
凡即聖、坦途兩部界、密壇唯佛與佛、奧室乍色聲乍

族、藤藤、蔓南北葉、纂百僧、設供俸、香積三佛念持、歸

法身、五十回辰念、其祖、冀資冥福、濟此淪

元祿元戊辰年、行年五十歲

弘法大師贊、正月二十四日

尼吒天宮遍照尊、發光日本燭、黎元結壇持呪、護家
國千古風流、今尚存

傳法灌頂後朝嘆德、表白戊辰春
浦西國寺主密照灌

頂之時予為大阿
闍黎、妙嚴勤之

金剛乘佛子等、異口同音、白言、夫惟三昧耶戒軌、即
凡即聖、坦途兩部界、密壇唯佛與佛、奧室乍色聲乍

㊦ 30

香味悉為本有輪圓家珍云鬼畜云人天亦皆自性
法然聖衆逾深逾廣三自本覺之所足疲宵手邈乎
一道清淨之所望斷是故龜氏請問能寂猶秘金剛
不壞之宗勇心親傳龍勝勑弘鐵塔所藏之經正像
雖別進修非難人法獨尊值遇豈易毗盧藏海之巨
游泳如此如斯陀羅尼門之本圓通奇矣妙矣恭惟
現前大阿闍梨耶神岐救蟻蚤傾心於最上仏乘齒
及驅鳥稍染指于極無比味慈愍尤深切本以興隆
佛法在懷器宇寬淵宏常以兼濟自他為念利生安
民之善知識宛在斯人傳戒授職之軌範師駕言何

竟專受者新阿闍梨耶天生篤愍實酬百世種植之
因人推寬仁遂負一門綱領之任是以慈育羣弟尼
丘七十厥古應追規矩諸徒艸堂三千其蹤可踵況
復始酌範公之派醍醐之融妙既盡嘗後泳俊師之
流仁海之深底克窮極曾入先師之室雖已得阿闍
黎印成今思後生之箴重稟受漫拏羅符璽貴矣其
德周備羨乎其益高深觀夫天葩吐于滿林密嚴華
嚴溢眼谷鳥遷乎喬木妙音妙趣聳聽風光法尔契
當希願忽然成辦絲旃各不耐隨喜之至人欽致敬
禮之誠

香味悉為本有輪圓家珍云鬼畜云人天亦皆自性
法然聖衆逾深逾廣三自本覺之所足疲宵手邈乎
一道清淨之所望斷是故龜氏請問能寂猶秘金剛
不壞之宗勇心親傳龍勝勑弘鐵塔所藏之經正像
雖別進修非難人法獨尊值遇豈易毗盧藏海之巨
游泳如此如斯陀羅尼門之本圓通奇矣妙矣恭惟
現前大阿闍梨耶神岐救蟻蚤傾心於最上仏乘齒
及驅鳥稍染指于極無比味慈愍尤深切本以興隆
佛法在懷器宇寬淵宏常以兼濟自他為念利生安
民之善知識宛在斯人傳戒授職之軌範師駕言何

竟專受者新阿闍梨耶天生篤愍實酬百世種植之
因人推寬仁遂負一門綱領之任是以慈育羣弟尼
丘七十厥古應追規矩諸徒艸堂三千其蹤可踵況
復始酌範公之派醍醐之融妙既盡嘗後泳俊師之
流仁海之深底克窮極曾入先師之室雖已得阿闍
黎印成今思後生之箴重稟受漫拏羅符璽貴矣其
德周備羨乎其益高深觀夫天葩吐于滿林密嚴華
嚴溢眼谷鳥遷乎喬木妙音妙趣聳聽風光法尔契
當希願忽然成辦絲旃各不耐隨喜之至人欽致敬
禮之誠

同時諷誦文 三月七日

夫以聲聞、毗奈夜、現生證小涅槃之遠謨真言、毗
迦、即身得大菩提之直道、此故彼極聖屬唯離有漏
取蘊、此纔見人頓植無上智種子、某甲法海爛屍
膠沐功德、香湯繙林、朽枝幸、樹平等法雨、佛樹之芽
稍茁、煩惱之熱將、蘇復冀使諸有緣沾其殊澤、引多
無智入斯福庭、此故嚴飾兩部密場、奏梵唄梵讚、雅
曲延屈、數十淨侶、展最尊最勝法筵、余乃自他罪炎
條消、五瑜伽之智水業惱、垢體速熏三昧耶之戒香、
山毫索多垂青眼、而明照地墨、佛馱鑒丹心、以證誠

同時諷誦文 三月七日

夫以聲聞、毘奈夜、現生證小涅槃之遠謨真言、毘
迦、即身得大菩提之直道、此故彼極聖屬唯離有漏
取蘊、此纔見人頓植無上智種子、某甲法海爛屍
膠沐功德、香湯繙林、朽枝幸、樹平等法雨、佛樹之芽
稍茁、煩惱之熱將、蘇復冀使諸有緣沾其殊澤、引多
無智入斯福庭、此故嚴飾兩部密場、奏梵唄梵讚、雅
曲延屈、數十淨侶、展最尊最勝法筵、余乃自他罪炎
條消、五瑜伽之智水業惱、垢體速熏三昧耶之戒香、
山毫索多垂青眼、而明照地墨、佛馱鑒丹心、以證誠

敬白

書心譽清圓善女人寫阿彌陀經一千卷之終

五月十六

淨土之為教也、寔大乎哉、能寂創開恒沙、大覺誠言
稱讚世親弘贊三國、諸師淨信、布宣五濁、有生由之
解脫苦縛、六道含識乘之、往赴樂邦、曰若清信、女人
其名清圓號、曰心譽、效常精進之力、竭不休息之誠
敬、為資先考宗蓮亡妣妙圓之冥福、欽寫斯真典一
千卷矣、貧道听其懇篤、不耐感喜、助之贊之曰
奇哉大覺、雄法寶濟、貧窮乘願、苦牢脫、稱名樂國、通

敬白

書心譽清圓善女人寫阿彌陀經一千卷之終

五月十六

淨土之為教也、寔大乎哉、能寂創開恒沙、大覺誠言
稱讚世親弘贊三國、諸師淨信、布宣五濁、有生由之
解脫苦縛、六道含識乘之、往赴樂邦、曰若清信、女人
其名清圓號、曰心譽、效常精進之力、竭不休息之誠
敬、為資先考宗蓮亡妣妙圓之冥福、欽寫斯真典一
千卷矣、貧道听其懇篤、不耐感喜、助之贊之曰
奇哉大覺、雄法寶濟、貧窮乘願、苦牢脫、稱名樂國、通

育^ス吾^ヲ恩^ヲ渺^{ヒト}々^ト念^ハ彼^ヲ意^ヲ忡^々回^ニ此^ノ無^量福^ヲ冀^ハ兼^ハ蠢^ハ動^シ同^シ
泉州大鳥郡池田谷万町村小寺住持阿闍梨
存有書寫大般若經同村父老伏屋長左衛尉
重賢傾財供紙筆料予跋其尾^{初五}
般若之為德其大乎哉不壞假名而說實理無動真
際建立諸相三世薩埵憑之發心十方如來師之成
覺此故切利釋主仰以禦須倫之陳欲色天王敬而
禮瑜伽之者恒沙冥衆坐臥圍繞解脫之法師十六
神王晨昏擁衛書寫之淨侶存有大德託生和州幼
入野峯修學密藏后隱泉國觀鍊達磨嘗奮勇心繕

膳般若夙興夕寐無有息時霜苦雪辛不敢倦怠經
歷六稔竟成大功信士重賢助志勦力傾其錢囊辦
紙筆料嗚呼是此兩人夙種曠劫之善因生遭清代
之好世發斯無限之志終夫莫大之勲自非須弥聚
之筆大海量之墨豈能記盡其懿德詎敢稱讚厥成
功實惟一部真文二百六十五品品開演諸法皆
空之興趣全委妙典六百四十萬字字字消除無始
之業煩云師云檀三菩提之妙果頓成熟或他或自
四法身之覺城必莊嚴焉予大乎其志故欽書其尾
書梵網撮要之首

育^ス吾^ヲ恩^ヲ渺^々（シロ）念^ハ彼^ヲ意^ヲ忡^々（ラスカ）回^ニ此^ノ無^量福^ヲ冀^ハ兼^ハ蠢^ハ動^シ同^シ

泉州大鳥郡池田谷万町村小寺住持阿闍梨

存有書寫大般若經同村父老伏屋長左衛尉

重賢傾財供紙筆料予跋其尾^{初五}

般若之為德其大乎哉不壞假名而說實理無動真

際建立諸相三世薩埵憑之發心十方如來師之成

覺此故切利釋主仰以禦須倫之陳欲色天王敬而

禮瑜伽之者恒沙冥衆坐臥圍繞解脫之法師十六

神王晨昏擁衛書寫之淨侶存有大德託生和州幼

入野峯修學密藏后隱泉國觀鍊達磨嘗奮勇心繕

膳般若夙興夕寐無有息時霜苦雪辛不敢倦怠經
歷六稔竟成大功信士重賢助志勦力傾其錢囊辦
紙筆料嗚呼是此兩人夙種曠劫之善因生遭清代
之好世發斯無限之志終夫莫大之勲自非須弥聚
之筆大海量之墨豈能記盡其懿德詎敢稱讚厥成
功實惟一部真文二百六十五品品開演諸法皆
空之興趣全委妙典六百四十萬字字字消除無始
之業煩云師云檀三菩提之妙果頓成熟或他或自
四法身之覺城必莊嚴焉予大乎其志故欽書其尾
書梵網撮要之首

嘗聞心地未平治則無由架於大覺之殿戒足未強健則不得入心王之都也是以淨滿鵝王位鉢娜麼臺上而說示心地法門於微塵數菩薩寂業師子坐畢鉢羅樹下以轉授重輕禁戒于百萬億大衆其行極淨遠離諸染稱之為梵其體含弘攝持萬善況之于網其法方正防止衆邪名之為戒梵網戒之為教也高哉大哉始興印度流演至那遂漸馬臺其利至博其益極遠從上諸師作為章疏開曉未悟之者太多就中覈其法相決斷分明也則青丘古迹為尤為魁雖然文也簡古義也幽邃幼學淺識苦之難之吾

邦為之鈔解之者亦夥頃年洛西雙丘知足庵主空老和尚正其考證折衷諸說以為六冊命曰撮要從來疑闕豁爾開通言雖簡約用甚寬大寔知名下無虛說矣自從始學以及宿匠不以為準繩之者未之有也貧道柱隨僧綱汗黷緇林因世逼請亂道數般去春肆筵於武城今夏施帳于泉濱僉憑撮要得利居多豈不思空老之鴻德乎今剗剗氏某需叙厥首貧道自少不事筆研豈敢之乎辭之不允不揣蕪陋焚鄉而言原夫斯經有二種趣一顯略趣如常論譚略如上述二祕密趣出過常情謂梵者極淨即大日

嘗聞心地未平治則無由架於大覺之殿戒足未強健則不得入心王之都也是以淨滿鵝王位鉢娜麼臺上而說示心地法門於微塵數菩薩寂業師子坐畢鉢羅樹下以轉授重輕禁戒于百萬億大衆其行極淨遠離諸染稱之為梵其體含弘攝持萬善況之于網其法方正防止衆邪名之為戒梵網戒之為教也高哉大哉始興印度流演至那遂漸馬臺其利至博其益極遠從上諸師作為章疏開曉未悟之者太多就中覈其法相決斷分明也則青丘古迹為尤為魁雖然文也簡古義也幽邃幼學淺識苦之難之吾

邦為之鈔解之者亦夥頃年洛西雙丘知足庵主空老和尚正其考證折衷諸說以為六冊命曰撮要從來疑闕豁爾開通言雖簡約用甚寬大寔知名下無虛說矣自從始學以及宿匠不以為準繩之者未之有也貧道柱隨僧綱汗黷緇林因世逼請亂道數般去春肆筵於武城今夏施帳于泉濱僉憑撮要得利居多豈不思空老之鴻德乎今剗剗氏某需叙厥首貧道自少不事筆研豈敢之乎辭之不允不揣蕪陋焚鄉而言原夫斯經有二種趣一顯略趣如常論譚略如上述二祕密趣出過常情謂梵者極淨即大日

極果無染、不淨之稱、亦即彼佛法曼荼羅身網者、本誓慍懺無生、不攝之名、即是三昧耶曼荼羅身經者、能詮言教亦是法身盧舍那者、舊家胡言新家梵名、具曰毗盧遮那是日之別名、光照遍照除暗遍明能成衆務等義、即毗盧遮那根本體性大曼荼羅身、菩薩者即修真言行者、自心求菩提如實知自心之者、心地法門者毗盧遮那所說法門所謂三摩耶佛成三摩耶者此曰等持、等者平等持者攝持謂十界依正一性相故彼入我等我能攝持我入彼等彼亦攝持是故此戒則迷悟平等之心地生佛本具之性德

極果無染、不淨之稱、亦即彼佛法曼荼羅身網者、本誓慍懺無生、不攝之名、即是三昧耶曼荼羅身經者、能詮言教亦是法身盧舍那者、舊家胡言新家梵名、具曰毗盧遮那是日之別名、光照遍照除暗遍明能成衆務等義、即毗盧遮那根本體性大曼荼羅身、菩薩者即修真言行者、自心求菩提如實知自心之者、心地法門者毗盧遮那所說法門所謂三摩耶佛成三摩耶者此曰等持、等者平等持者攝持謂十界依正一性相故彼入我等我能攝持我入彼等彼亦攝持是故此戒則迷悟平等之心地生佛本具之性德

雖然衆生癡迷觸目不識斯故自然尸羅待教緣而顯現法尔毘尼因師授而發得若能解知此理受得此戒則名從凡入佛位即是真實無妄之佛子也故經曰衆生受佛戒即入諸佛位位同大覺已真是諸佛子大廣智三藏引此一偈以合密藏而說梵網經者是金剛頂經淺略之分也然乃顯學之人密行之者孰不仰止世有一等兇頑而曰密人則以宗三摩耶戒不須彼菩薩戒焉是則不識梵網戒之菩薩則是自家之寧馨兒而擯之他家耳貧道且憤且悲故據予懷而酬空老罔極之一云昔元祿元稔龍飛著

雖然衆生癡迷觸目不識斯故自然尸羅待教緣而顯現法尔毘尼因師授而發得若能解知此理受得此戒則名從凡入佛位即是真實無妄之佛子也故經曰衆生受佛戒即入諸佛位位同大覺已真是諸佛子大廣智三藏引此一偈以合密藏而說梵網經者是金剛頂經淺略之分也然乃顯學之人密行之者孰不仰止世有一等兇頑而曰密人則以宗三摩耶戒不須彼菩薩戒焉是則不識梵網戒之菩薩則是自家之寧馨兒而擯之他家耳貧道且憤且悲故據予懷而酬空老罔極之一云昔元祿元稔龍飛著

雍執徐暢月之吉河南教興傳瑜伽乘沙門淨嚴欽
題

乞木犀一株于空心上座移栽教興佛殿前戊辰冬
孤立亭々專勁質清香發月少倫匹移栽慈氏殿前
來待到龍華開佛日

元祿二己巳年行年五十一歲

己巳元旦修供之次試毫

節過寒合微雨霰却霏霏新燭開新曆舊身著舊衣
一言衆罪蕩万象片心歸誰知個場裏熙別有輝
真觀居士號九十有一老叟

雍執徐暢月之吉河南教興傳瑜伽乘沙門淨嚴欽
題

乞木犀一株于空心上座移栽教興佛殿前戊辰冬

孤立亭々專勁質清香發月少倫匹移栽慈氏殿前
來待到龍華開佛日

元祿二己巳年行年五十一歲

己巳元旦修供之次試毫

※己から之まで付箋剝離の跡あり

節過寒合微雨霰却霏霏新燭開新曆舊身著舊衣
一言衆罪蕩万象片心歸誰知個場裏熙別有輝
真觀居士號九十有一老叟

九十餘霜擅獨樂幽居元自遠人寰勸君觀照一真
性忽爾開通三有閑

法嚴閣黎摸予肖像以求題上五月二日
言相言性曰色曰心遍界皆是詎勞追尋

題標科會記羯磨疏小引

竊以毗尼之有羯磨也則是猶密教之有瑜伽焉羯
磨有集僧出罪結解于界淨於衣食等法若不標其
心若其人若作法若緣事一非之則其事不成亦除
淨衆之外則不使別人見聞也瑜伽亦然亦有請尊
懺罪結解場界淨地淨物等儀或身印或口言或想

九十餘霜擅獨樂幽居元自遠人寰勸君觀照一真
性忽爾開通三有閑

法嚴閣黎摸予肖像以求題上五月二日
言相言性曰色曰心遍界皆是詎勞追尋

題標科會記羯磨疏小引

竊以毗尼之有羯磨也則是猶密教之有瑜伽焉羯
磨有集僧出罪結解于界淨於衣食等法若不標其
心若其人若作法若緣事一非之則其事不成亦除
淨衆之外則不使別人見聞也瑜伽亦然亦有請尊
懺罪結解場界淨地淨物等儀或身印或口言或想

念偏失則其法亦不就又不令傍人覺知也矣蓋夫
羯磨之在梵邦也與夫呪明同是聖語然乃授之瑜
伽唯欠手印耳其餘則不必大異也余自弱齡溫習
秘軌覺稍入佳境亦入律範但少有倣像因而益信
聖制之逾有實而羯磨之必無虛焉昔真和尚之創
傳毗尼于東垂也但融三一中圓上人之再興木叉
乎南京也深會顯密想之必存斯義唯未聞厥說已
矣即今時遭聖明震寓廓清戎馬不動賊盜無聞如
旃葷酒不用于王家屠殺久禁於諸藩自從釋教漸
于扶桑未有如斯以故法輪轉於四國蠢動咸皆蒙

其冥益戒網張乎諸刹芻蕘莫不濡厥德澤龍天歡
喜風雨和順民有儲穀野無餓莩亦何加焉所恨
南山律祖三部大章本末及科各殊厥編披讀之者
頗倦對映罕有不向卷咨嗟矣粵有慧門光公始稟
已來以之為念願力所熏不默而止遂與法弟瑞芳
覺公對牕秉燭涼燠不分逐於疏章附記其下標科
其上繕謄既畢囑劄氏因而求余之題羯磨疏記
之首焉余雅庸鄙不解文字固讓不容責之苦切無
地辭謝且律制斷嚴飾辭句是余之所幸也況暗符
契余之本業乎哉於斯忘其固陋又手言曰夫時區

念偏失則其法亦不就又不令傍人覺知也矣蓋夫
羯磨之在梵邦也與夫呪明同是聖語然乃授之瑜
伽唯欠手印耳其餘則不必大異也余自弱齡溫習
秘軌覺稍入佳境亦入律範但少有倣像因而益信
聖制之逾有實而羯磨之必無虛焉昔真和尚之創
傳毗尼于東垂也但融三一中圓上人之再興木叉
乎南京也深會顯密想之必存斯義唯未聞厥說已
矣即今時遭聖明震寓廓清戎馬不動賊盜無聞如
旃葷酒不用于王家屠殺久禁於諸藩自從釋教漸
于扶桑未有如斯以故法輪轉於四國蠢動咸皆蒙

其冥益戒網張乎諸刹芻蕘莫不濡厥德澤龍天歡
喜風雨和順民有儲穀野無餓莩亦何加焉所恨
南山律祖三部大章本末及科各殊厥編披讀之者
頗倦對映罕有不向卷咨嗟矣粵有慧門光公始稟
已來以之為念願力所熏不默而止遂與法弟瑞芳
覺公對牕秉燭涼燠不分逐於疏章附記其下標科
其上繕謄既畢囑劄氏因而求余之題羯磨疏記
之首焉余雅庸鄙不解文字固讓不容責之苦切無
地辭謝且律制斷嚴飾辭句是余之所幸也況暗符
契余之本業乎哉於斯忘其固陋又手言曰夫時區

清濁人別狂哲上智則就經律而直行之中根則憑
疏鈔而始解之下品則待記註而后通焉至若童蒙
則校讀猶病矧其直行等乎是知光公此舉廢庇之
於吾黨也昊天尚未為大樂學戒者不可不思皆元
祿二歲星紀己巳秋七月月次天駟之辰住河南高
安教興傳秘密乘茲芻蕘淨嚴欽序

大師像贊世号秘
鍵大師

悉地神通億百千金剛纔轉沈痾瘥誰言彩畫非真
體四種曼荼本自圓

元祿三年庚午年 行年五十二歲

庚午元旦

五十二回秋又春忘年多少半成塵幽齋日暖無餘
事唯有二墳常相親

空戸氏觀音像贊初夏黑七

垂迹補陀海岸南弘深德用巨彈談紺眸有盼冷慈
愍黔首無知力荷擔一念過消煩業苦片言倏滅患
癡貪普門示現互塵刹變像何唯三十三

元祿四年辛未年 行年五十三

臘八逢雪

一夜四山皆白頭松杉曾歷幾千秋人言今日佛成

清濁人別狂哲上智則就經律而直行之中根則憑
疏鈔而始解之下品則待記註而后通焉至若童蒙
則校讀猶病矧其直行等乎是知光公此舉廢庇之
於吾黨也昊天尚未為大樂學戒者不可不思時元
祿二歲星紀己巳秋七月月次天駟之辰住河南高
安教興一伝秘密乘茲芻蕘淨嚴欽序

大師像贊世号秘
鍵大師

悉地神通億百千金剛纔轉沈痾瘥誰言彩畫非真
體四種曼荼本自圓

元祿三年庚午年 行年五十二歲

庚午元旦

五十二回秋又春忘年多少半成塵幽齋日暖無余
事唯有二墳常相親

空戸氏觀音ノ像ノ贊初夏黑七

垂迹補陀海岸ノ南弘深德用巨彈談紺眸有盼冷慈
愍黔首無知力荷擔一念過消煩業苦片言倏滅患
癡貪普門示現互塵刹變像何唯三十三

元祿四年辛未年 行年五十三

臘八逢雪

一夜四山皆白頭松杉曾歷幾千秋人言今日仏成

道莫是六花呈瑞不降生出家般涅槃皆瑞不等般泥洹經云二月八日成道

武州豐島郡湯島鄉寶林山靈雲寺銅鐘銘

武都北郊有一勝地四野廓落四方之衆易來而投一丘崛起一天之星可坐而筭管祠良聳神鬼常作擁衛士峯坤峙靈祇遙為鎮護東眷天澤後聯鐘梵互和都城聖堂前屹屹曠相映實武野之甲區者也從四位下柳羽州源保明公者幕府之侍臣也天生篤愍忠孝是務在公之暇嚮志真乘常歎世季俗漓奉佛之徒不拘戒檢以故象教徒設無益因啓幕府

望請伽藍之地以囑貧道遂使今茲仲秋之二十二大將軍下旨賜許斯攸予乃夷榛莽卒勦營構遐邇競趨緇白佐助自閏八初二始斧以至孟冬之半土木之績條爾告成從四位下牧野備後刺史源成貞公者時之股肱也覽而有感喜捨家貲命于梟氏鎔成鉅鐘復令工匠締造其樓今月初四樓鐘偕就以惟斯寺之興起也者本是大將軍之賜而二公醇信之所致也予欲使後生有感于茲欽遵佛制力荷教法上以禱台運無疆下以增士民壽福也乃為銘曰城北福庭山号寶林元帥資地實比布金作夫四

道ト 莫ニシヤ是六花呈スルコト瑞ヲ不ヤ古來伝ヘテ言釋迦臘八ニ成道シタリ然モ方降生出家般涅槃皆二月八日ト故言及レ此

武州豐島郡湯島鄉寶林山靈雲寺銅鐘銘

武都北郊ニ有一ノ勝地一四野廓落タリ四方ノ之衆易ニ來テ而投一丘崛起ス一天ノ之星可ニ坐ニシテ而筭ヘッ菅祠良ヲ聳ユ神鬼常ニ作ニ擁衛士峯坤ニ峙ツ靈祇遙カニ為メ鎮護ス東眷天澤後聯ナル鐘梵互ヒ和ス都城聖堂前ヘニ屹タリ旭曠相ヒ映ス実ニ武野ノ之甲区ナル者也從四位下柳羽州源ノ保明公ハ幕府ノ侍臣也天生篤愍シテ忠孝是ヲ務ムム公ニ之暇ニ嚮カフ志ヲ真乘ニ常ニ歎世季ニ俗漓ウシテ奉佛之徒不拘ニ戒檢一以故ヘニ象教徒ニ設ケテ無レキコトヲ益因テ啓ニ幕府ニ

望ミ請デ伽藍之地一以テ囑センスト貧道ニ遂使シテ今茲仲秋ノ之二十二大將軍下レテ旨ヲ賜ヒス斯ノ攸一予乃チ夷ニ榛莽一卒ニ勦ニ營構一遐邇競ニ趨キ緇白ノ佐助自閏八ノ初二始メ斧ヲ以至孟冬ノ之半ニ土木ノ之績條爾ト告成從四位下牧野備後ノ刺史源成貞公ハ者時ノ之股肱ナリ也覽ミテ而有感スルコト喜捨シテ家貲一命ニ于梟氏ニ鎔ニ成シ鉅鐘ノ復令ニ工匠ノ締造セシ其樓今月初四ニ樓鐘偕ニ就以惟斯寺ノ之興起スルコトハ也者本トは大將軍ノ之賜ニシテ而ニ二公ノ醇信ノ所致ス也予欲使後生ヲ有感ニ茲ニ欽遵ニ佛制ニ力メテ荷ニ教法一上ハ以テ禱ニ台運ノ無疆一下ハ以テ增サンコトヲ士民ノ壽福也乃チ為レテ銘曰城北ノ福庭山ヲ号ス寶林ト元帥資レテ地實ト比布金ニ作夫四

集役工日臨彌歷七旬棟宇成森牧野備公作時
股肱命工為器倭命合程架樓突兀效響鏗鉤堅
聖畢華龍鬼熱醒聲雖本有乍起乍滅迷夫天真
妄作分別誰縛誰繼法音遍益何有垠埒
元祿第四歲次辛未季冬十有三日開山苾芻東
寺末裔淨嚴欽誌
元祿五壬申年行年五十四
高祖大師影贊七月廿日應紹觀閣黎需
求道青龍細載歸清涼殿裏百光輝誰知性佛法然
事到處元來無是非

長江氏瑞菴黑竹贊九月二日
吾愛此文心虛節貞非木非艸一莖兩莖戰風節月
招鳳棲鸞雖唯寫象却似有聲
病中頌九月十三日發病時疫
靈雲山中子頽然臥病牀有眼不能見有耳不聞聲
有舌不別味有鼻不辨香有身不覺觸有識不克量
一心不外覓渾眠暗窓若能常如此速入密嚴場
又不調聲
病者一身全是垢垢兼無垢不須論若明垢淨本不
二括囊沙界向心門

集役工日臨彌歷七旬棟宇成森牧野備公作時
股肱命工為器倭命合程架樓突兀效響鏗鉤堅
聖畢華龍鬼熱醒聲雖本有乍起乍滅迷夫天真
妄作分別誰縛誰繼法音遍益何有垠埒
元祿第四歲次辛未季冬十有三日開山苾芻東
寺末裔淨嚴欽誌
元祿五壬申年行年五十四
高祖大師影贊七月廿日應紹觀閣黎需
求道青龍細載歸清涼殿裏百光輝誰知性佛法然
事到處元來無是非

長江氏瑞菴黑竹贊九月二日
吾愛此文心虛節貞非木非艸一莖兩莖戰風節月
招鳳棲鸞雖唯寫象却似有聲
病中頌九月十三日發病時疫
靈雲山中子頽然臥病牀有眼不能見有耳不聞聲
有舌不別味有鼻不辨香有身不覺觸有識不克量
一心不外覓渾眠暗窓若能常如此速入密嚴場
又不調聲
病者一身全是垢垢兼無垢不須論若明垢淨本不
二括囊沙界向心門

又

噫個病僧根識疲耳鳴眼暗坐如尸等閑應被西風笑
笑却黃花未有詩三四兩句全取危元吉對菊詩

元祿六癸酉年 行年五十五

元祿七甲戌年 行年五十六

書光明無礙觀後示大島氏甲戌四月十八日

今寄光明一言也開通字義甚深門勸君早達

真心體現證總持不動尊金剛頂時處軌曰現證佛菩提大佛頂經偈曰妙湛

總持不動尊

贊十一面像與村上氏 五月六日

又

噫個病僧根識疲耳鳴眼暗坐如尸等閑應被西風笑
笑却黃花未有詩三四兩句全取危元吉對菊詩

元祿六癸酉年 行年五十五

元祿七甲戌年 行年五十六

書光明無礙觀後示大島氏甲戌四月十八日

今寄光明一言也開通字義甚深門勸君早達

真心體現證總持不動尊金剛頂時處軌曰現證佛菩提大佛頂經偈曰妙湛

總持不動尊

贊十一面像與村上氏 五月六日

應同十界現斯十身懲惡勸善作慈乍瞋圖畫是妙
丹青即真法本備非古非新

書瞻貝多心經尊勝呪及悉曇十四音之後

十月十日

余自弱小頗志密乘長參諸師扣問底蘊僉言瑜伽
學者自非考索梵文詳形音義不克臻其堂奧於是
周訪博探專攻梵學音韻粗曉相義稍通然字源難
正望洋向若粵大和州法隆寺寶庫舊藏中天貝多
兩片乃是心經梵言佛頂尊勝及悉曇十四音也今
茲不揣得過覽之甚愜素願歡喜無量拊踊罔措斯

應同十界現斯十身懲惡勸善作慈乍瞋圖畫是妙
丹青即真法法々本備ハレリ非古ニ非新ニ

書瞻貝多心經尊勝呪及悉曇十四音之後

十月十日

余自弱小頗志密乘長參諸師扣問底蘊僉言瑜伽
學者自非考索梵文詳形音義不克臻其堂奧於是
周訪博探專攻梵學音韻粗曉相義稍通然字源難
正望洋向若粵大和州法隆寺寶庫舊藏中天貝多
兩片乃是心經梵言佛頂尊勝及悉曇十四音也今
茲不揣得過遇覽之甚愜素願歡喜無量拊踊罔措斯

則拭病目向明聰強推偏傍尋覓首尾旋得認著少
應倣像遂使不揆柔兔卒瞻一本更加對註朱點句
義以貽後昆殊恨原本筆力遒勁龍飛獅奔故未免
畫虎類狗之誚昔元祿第七龍集甲戌十月未望東
都靈雲沙門釋淨嚴跋并書

大和州法隆學問寺殿塔修補募緣疏

吾聖德太子原為勝鬘親蒙佛記數生支那修道衡
嶽遂現日國託迹王族提孩示岐嶷之相成童顯聖
哲之才于本朝艸昧之際肇興牟尼之遺教丁一千
五百之像季建數十个所之梵宇大和州法隆學問

寺厥尤者也寶塔崛起四壁巧塑諸聖集會之貌其
壁有佛遺文殊問維摩疾并東方界送師子產及香
積飯來之像南方塑兜率內院弥勒淨土集會之
狀西壁顯佛滅後奉納金棺大衆哀歎及建制
多供舍利之相其北捏佛臨涅槃摩訶迦葉捧
病迦舍城診紺殿寬大每載展三經講演之席一夏
修觀無替懃祝實祚之悠久二時梵唄不懈長禱率
土之靖寧就中上宮王院者聖皇常所遊處斑鳩宮
是也禪扉畫閣聖心迴遊衡嶽前身奉持妙典條在
玉案靈輶宵轟神人屢降夢殿未然所記奇識藏之
祕府凡其靈蹤不可勝紀艸創以來幾乎一千百歲
所有殿堂數回修葺去慶長中東照太神君忝降鈞

則拭病目向明聰強推偏傍尋覓首尾旋得認著少
應倣像遂使不揆柔兔卒瞻一本更加對註朱點句
義以貽後昆殊恨原本筆力遒勁龍飛獅奔故未免
畫虎類狗之誚昔元祿第七龍集甲戌十月未望東
都靈雲沙門釈淨嚴跋并書

大和州法隆學問寺殿塔修補募緣疏

吾聖德太子原為勝鬘親蒙佛記數生支那修道衡
嶽遂現日國託迹王族提孩示岐嶷之相成童顯聖
哲之才于本朝艸昧之際肇興牟尼之遺教丁一千
五百之像季建數十个所之梵宇大和州法隆學問

寺厥尤者也寶塔崛起四壁巧塑諸聖集會之貌其
壁有佛遺文殊問維摩疾并東方界送師子座及取香
積飯來之像南方塑兜率內院弥勒淨土集會之
狀西壁顯佛滅後奉納金棺大衆哀歎及建制
多供舍利之相其北捏佛臨涅槃摩訶迦葉捧
病迦舍城診紺殿寬大每載展三經講演之席一夏
修觀無替懃祝實祚之悠久二時梵唄不懈長禱率
土之靖寧就中上宮王院者聖皇常所遊處斑鳩宮
是也禪扉畫閣聖心迴遊衡嶽前身奉持妙典條在
玉案靈輶宵轟神人屢降夢殿未然所記奇識藏之
祕府凡其靈蹤不可勝紀艸創以來幾乎一千百歲
所有殿堂數回修葺去慶長中東照太神君忝降鈞

命百廢具舉元和初年親征豐臣氏之肯先駐台駕于斯寺敬拜聖像并寶弓寶箭等因乃一掃勅敵溥天稱慶自爾至今八十餘霜風光遷變露往霜來瓦甍差脫梁棟垂傾寺僧等雖欲興復以掌堙河慨歎而已重思方今明君秉權治教休明四海咸洽仁義之化兆民皆誇富饒之樂乘此泰平之時成其修補之功於是周告都鄙斬厥檀資特希不論多寡助治梵刹念之在茲餘不日贅昔元祿七年閏中夏日法隆寺合山大衆欽疏

又

吾聖德太子者觀在薩埵之應化勝鬘夫人之後身昔在阿踰闍親受普光如來之懸記數生振丹國終播思大禪師之美名後降扶桑示迹皇子天資穎發不肆自知遂使教化蒸民導誘仁義討伐兇賊興起法幢營構數十精藍安置僧尼捏鑄若干寶像供事聖尊大和州法隆寺最其稱首者也紺宇玉塔輪乎奘乎恒時修供之梵宮三經講演之寶閣凡其勝崛不可舉殫然而開址已來幾千百歲雖屢修葺繼後朽頽僉思方今聖君應世四海昇平童豎歌街老農擊壤乘斯康哉之日成茲修復之功豈不善乎繇旃

命、百廢具舉元和初年親征豐臣氏之時先駐台駕于斯寺敬拜聖像并寶弓寶箭等因乃一掃勅敵溥天稱慶自爾至今八十餘霜風光遷變露往霜來瓦甍差脫梁棟垂傾寺僧等雖欲興復以掌堙河慨歎而已重思方今明君秉權治教休明四海咸洽仁義之化兆民皆誇富饒之樂乘此泰平之時成其修補之功於是周告都鄙斬厥檀資特希不論多寡助治梵刹念之在茲餘不日贅昔元祿七年閏中夏日法隆寺合山大衆欽疏

又

吾聖德太子者觀在薩埵之應化勝鬘夫人之後身昔在阿踰闍親受普光如來之懸記數生振丹國終播思大禪師之美名後降扶桑示迹皇子天資穎發不肆自知遂使教化蒸民導誘仁義討伐兇賊興起法幢營構數十精藍安置僧尼捏鑄若干寶像供事聖尊大和州法隆寺最其稱首者也紺宇玉塔輪乎奘乎恒時修供之梵宮三經講演之寶閣凡其勝崛不可舉殫然而開址已來幾千百歲雖屢修葺繼後朽頽僉思方今聖君應世四海昇平童豎歌街老農擊壤乘斯康哉之日成茲修復之功豈不善乎繇旃

溥チホ扣ツク華夷ケイ索ス其コノ勳力クンリキ曰コト若ニ大樹ダイジュ殿下タノ并ニ尊ス大夫人ダイフジン桂ケイ
昌シヤウ院イン殿テン拜ヒ真身シン舍利セリ糞フン掃ソウ袈裟カサ王子ワンシ真跡シンセキ戒ケイ經キヤウ寶ホウ弓コウ
箭セン等トウ仰オウ信シン非ヒ常ジョウ檀タン施シ甚シ夥フ以コノ故コノ公コウ女ニョ族シツ瞻テン奉ホウ競キヤウ資シ
諸シヨ侯コウ大ダイ夫フ喜キ捨セ相サウ繼キ具コノ下ゲ其コノ若ニ之シ則ソレバ修シュ補ポ之シ績シキ不ス日ニ日ニ
而シテ成ス不レ亦モ說セツ乎ニ昔コノ日ニ王ワン子シ記キ曰コト未ミ來ライ或ハ有アル國コク王ワン大ダイ臣シン
造ゾウ乎ニ寺シ塔タツ施シ乎ニ莊シヤウ田テン興キヤウ隆リヤウ三サン寶ホウ安アン置シ衆シユウ僧ソウ是コノ皆ハ我ガ之シ
後コノ身ミ也ニ熟ジュク思シ聖セイ跡シツ巨キョ測ソク或ハ應オウ之シ耶ヤ故コノ書カキ
元祿八乙亥年 行年五十七歲

春日即事 乙亥春寒

歌吹競 誼譁 韶光千万家 步廊頭尚罩 入殿手先叉

村寺稀逢客 春寒不礙花 南窓無別事 竟日一甌茶
又
今茲凜冽已三旬 庭樹黃鸝未告春 為法雖無惜軀
命濟生却合願 精神利衰無冒閑中靜名勢不關方
外身野柄平常豈多事 澆囊瓶鉢一棉茵
書虛空藏祕訣 後十二月十七日
小智何窮法 實相下毫厘 語覺旋長一文半 句含塵
刹億義恒門蔑海量 大士威神非所議 總持功力說
無央莫言吾盡其源底 欲解唯令心慮亡
元祿九丙子年 行年

溥チホ扣ツク華夷ケイ索ス其コノ勳力クンリキ曰コト若ニ大樹ダイジュ殿下タノ并ニ尊ス大夫人ダイフジン桂ケイ
昌シヤウ院イン殿テン拜ヒ真身シン舍利セリ糞フン掃ソウ袈裟カサ王子ワンシ真跡シンセキ戒ケイ經キヤウ寶ホウ弓コウ
箭セン等トウ仰オウ信シン非ヒ常ジョウ檀タン施シ甚シ夥フ以コノ故コノ公コウ女ニョ族シツ瞻テン奉ホウ競キヤウ資シ
諸シヨ侯コウ大ダイ夫フ喜キ捨セ相サウ繼キ具コノ下ゲ其コノ若ニ之シ則ソレバ修シュ補ポ之シ績シキ不ス日ニ日ニ
而シテ成ス不レ亦モ說セツ乎ニ昔コノ日ニ王ワン子シ記キ曰コト未ミ來ライ或ハ有アル國コク王ワン大ダイ臣シン
造ゾウ乎ニ寺シ塔タツ施シ乎ニ莊シヤウ田テン興キヤウ隆リヤウ三サン寶ホウ安アン置シ衆シユウ僧ソウ是コノ皆ハ我ガ之シ
後コノ身ミ也ニ熟ジュク思シ聖セイ跡シツ巨キョ測ソク或ハ應オウ之シ耶ヤ故コノ書カキ
元祿八乙亥年 行年五十七歲

春日即事 乙亥春寒

歌吹競 誼譁 韶光千万家 步廊頭尚罩 入殿手先叉

村寺稀逢客 春寒不礙花 南窓無別事 竟日一甌茶
又
今茲凜冽已三旬 庭樹黃鸝未告春 為法雖無惜軀
命濟生却合願 精神利衰無冒閑中靜名勢不關方
外身野柄平常豈多事 澆囊瓶鉢一棉茵
書虛空藏祕訣 後十二月十七日
小智何窮法 實相下毫厘 語覺旋長一文半 句含塵
刹億義恒門蔑海量 大士威神非所議 總持功力說
無央莫言吾盡其源底 欲解唯令心慮亡
元祿九丙子年 行年

河州觀心寺實慧僧正八百五十回忌漫茶羅

供表白 仁和寺真乘院前法務大僧正
孝源為其導師命予製之

夫以兩部漫茶羅尊儀者遮那法帝坐月殿而照機
遍照覺皇踞蓮臺以授藥大種姓族雖頓達悟其本
源重垢累人不克速得夫真實是以叮嚀苦口開演
內證無盡莊嚴慈愍殷勤宣示自心恒沙固有其為
儀相也若奮怒若歡喜各握幪幟而森羅或佛陀或
索多咸表契印以圍繞金剛甲冑攝羣迷垂護持珍
寶幢旗利衆生破煩惱五股三股之杵彰五部三部
之智心八幅四幅之輪摧八魔四魔之怨敵覽物求

河州觀心寺實慧僧正八百五十回忌漫茶羅

供表白 仁和寺真乘院前法務大僧正
孝源為其導師命予製之

夫以兩部漫茶羅尊儀者遮那法帝坐月殿而照機
遍照覺皇踞蓮臺以授藥大種姓族雖頓達悟其本
源重垢累人不克速得夫真實是以叮嚀苦口開演
內證無盡莊嚴慈愍殷勤宣示自心恒沙固有其為
儀相也若奮怒若歡喜各握幪幟而森羅或佛陀或
索多咸表契印以圍繞金剛甲冑攝羣迷垂護持珍
寶幢旗利衆生破煩惱五股三股之杵彰五部三部
之智心八幅四幅之輪摧八魔四魔之怨敵覽物求

義得意非遙恭惟當寺本願僧正者彰岐嶷于稚齒
遠踵童壽之蹤播聲譽於壯齡將繼龍勝之古所以
南岳門葉茲師獨出厥羣東域密園此人殊推其粹
遂使擇星辰降臨之地開此觀心之山膺師父顧命
之言主彼護國之寺自余已降敎王隆興莫不因其
德光宗乘久昌無不被厥恩澤吾門有心之者誰不
念其功勞方今丁八百五十之忌景捨末裔隨分之
資財供四重五部之聖尊酬本願罔極之恩德所設
之物實雖菲微所運之心何不周遍既而幡蓋影轉
昊天之際豈無梵唄韻清空谷之應可效仰丐紺頂

義得意非遙恭惟當寺本願僧正者彰岐嶷于稚齒
遠踵童壽之蹤播聲譽於壯齡將繼龍勝之古所以
南岳門葉茲師獨出厥羣東域密園此人殊推其粹
遂使擇星辰降臨之地開此觀心之山膺師父顧命
之言主彼護國之寺自余已降敎王隆興莫不因其
德光宗乘久昌無不被厥恩澤吾門有心之者誰不
念其功勞方今丁八百五十之忌景捨末裔隨分之
資財供四重五部之聖尊酬本願罔極之恩德所設
之物實雖菲微所運之心何不周遍既而幡蓋影轉
昊天之際豈無梵唄韻清空谷之應可效仰丐紺頂

俯納丹心

相州大住郡高森里八幡宮銅鐘銘 八月十

寛文辛亥孟夏之望始行余之采邑觀其民物里有
八幡靈祠林木鬱翳風物可愛雖爾棟宇向傾門牆
亦無良慨余家本出王族入雖稱高姓父祖不遇食
戸太乏以故未能興復祠宇也於茲務守節儉以官
俸之贖修飾屋甍增建門籬而今村老胥與勦力造
一鉅鐘將少答神衛之鴻德余亦父子傾橐以造斯
功銘曰

皇靈應神仁智且勇四夷爭歸一人垂拱我邦宗廟

俯シテ納_レトヘ丹心

相州大住郡高森里八幡宮銅鐘銘 八月十

寛文辛亥孟夏ノ之望始行_メ余_ノカカ_ニル_ル采邑_ニ觀_ル其_ノ民物_ヲ里_ニ有_ニ
八幡ノ靈祠_一林木鬱翳_ト風物可愛_シ雖_レ爾_ノ棟宇向_レトス傾_ク門牆_モ
亦無_レ良_ト慨_ク余_ノ家本_ト出_テ王族_一人雖_レトモ稱_スハ高姓_一父祖不遇_ニシテ食
戸太乏_シ以故_ヲ未能興_ス復_ス祠宇_一也於茲務_メテ守_ル節儉_一以_ニ官
俸_ノ之贖_一修_シ飾_シ屋甍_一增_ス建_ツ門籬_一而今村老胥_一與_テ勦_レ力_一造_ニス
一ノ鉅鐘_一將_ニ少_シ答_ム神衛_ノ之鴻德_一余亦父子傾_キ橐_一以_ニ造_ニス
功_一銘_ニ曰

皇靈應神仁智_{マタ}且勇_{アリ}四夷爭_ヒ歸_シ一人垂拱_ス我邦_ノ宗廟

㊦ 45

聖聖祇奉吾家本祖世世尊重降迹偏域愛育黔首
雲行雨施天高地厚欲酬湛恩非肴非酒鑄就洪鐘
鯨震獅吼流傳法音開曉重昏烈炎頓冷層冰倏溫
神本崇慈盍容蠲煩不必俎豆擬之蘋蘩

元禄十丁丑年 行年五十九

書新山不著居士手寫法華經之後 八月二

去年窮臘之初四武都清信男新山氏道水居士其
字不著携妙法蓮華經七大冊子來示余曰是我今
年元旦起筆至十月九日所畢其功也望請于佛成
道日奉供養之是我所願也余則盥手熏誦之則筆

聖聖祇_ニ奉_シ吾_ノ家_ノ本祖_ノ世世_ノ尊重_ス降_ニ迹_一偏域_ニ愛_ス育_ス黔首_一

雲行_キ雨施_シ天高_ク地厚_シ欲_ス酬_ニ湛_一恩_一非肴_ニ非酒_一鑄_ニ就_一洪鐘_一
鯨震_シ獅吼_フ流_シ傳_フ法音_一開_ス曉_一重昏_一烈炎_一頓_ニ冷_一層冰_一倏_ニ溫_一
神本_一崇慈_一盍_ニ容_一蠲煩_一不必_ニ俎豆_一擬_ニ之_一蘋蘩_一

元禄十丁丑年 行年五十九

書新山不著居士手寫法華經之後 八月二

去年窮臘ノ之初四武都ノ清信男新山氏道水居士其
字_ハ不著_一携_テ妙法蓮華經_一七大冊子_一來_ニ示_レ余_一曰_ハ是我_ノ今
年元旦起筆至十月九日_一所_{ナリ}畢_ニ其功_一也望_ミ請_フ于_ニ佛成
道_一日_一奉_レ供養_一之_一是我_ノ所_{ナリ}願_フ也余則盥_ス手_一熏誦_ス之_一則筆

㊦ 46

力適勁毫鋒快活字字畫畫虎踞獅怒未曾有一字
之失錯也意非是童工於揮毫亦篤誠厚信之所致
也嗚呼素俗之士厥勤猶既如此況廟緇門之者豈
不求勵乎遂於臘八設齋供養今茲夏重來求余書
其尾余年將耳順無常太迫宣事藻翰雖余索之至
懇不得固辭述贊偈曰
能仁示寂向三千斯典為人殊解纏日閱春秋
彈你信文融大小駭吾眠衣襟認得思惟寶如意心
水開敷妙法蓮字字皆成金色佛從今拔濟界無邊

河州教興寺附屬狀

一教興一寺在河州高安郡佛殿祖堂方丈庫庫衆
寮客寮山林園圃三寶屬物如別悉以附囑已訖
自今已後紹隆三寶修葺殿堂興法利生報佛祖
恩
一或存日或歿後所附託主必須比丘勿附餘人
實
一錦部郡小西見延命寺在干者我先考之所殷勤
遺囑也故我勵微力隨分興起我考也則你之祖
也豈應忽之他後兩寺徒侶互相融會護持三寶
是我之素願也故告時元祿十年星紀丁丑八月

力適勁（ニコマカ）毫鋒快活字字画画虎踞獅怒未曾有一字
之失錯也意非是童工於揮毫亦篤誠厚信之所致
也嗚呼素俗之士厥勤猶既如此況廟緇門之者豈
不求勵乎遂於臘八設齋供養今茲夏重來求余書
其尾余年將耳順無常太迫宣事藻翰雖余索之至
懇不得固辭述贊偈曰
能仁示寂向三千斯典為人殊解纏日閱春秋
彈你信文融大小駭吾眠衣襟認得思惟寶如意心
水開敷妙法蓮字字皆成金色佛從今拔濟界無邊

河州教興寺附屬狀

一教興一寺在河州高安郡佛殿祖堂方丈庫庫衆
寮客寮山林園圃三寶屬物如別悉以附囑已訖
自今已後紹隆三寶修葺殿堂興法利生報佛祖
恩
一或存日或歿後所附託主必須比丘勿附餘人
實
一錦部郡小西見延命寺在干者我先考之所殷勤
遺囑也故我勵微力隨分興起我考也則你之祖
也豈應忽之他後兩寺徒侶互相融會護持三寶
是我之素願也故告時元祿十年星紀丁丑八月

盡日武都靈雲開山五十九老苾芻淨嚴寄河州
錦部郡清水里地藏寺住持妙嚴近圓梧右

冠註即身成佛義絕筆頌三首十二月七日

自攀南嶽險心地漸安平三祕無垠垺（カギ）五輪任縱橫
長天掃雲淨皎月射窓明貽厥斯方策何惟金滿籬
不識己曼荼却求離桎枷一空元敞豁万有看森羅
浮沒非天獄覺迷無我他心源臻得日四海悉吾家
塊看顯露一三乘超出高過第十層燕雀寧知鴻鵠
志垂天況是太空鵬（ハヤ）

雪十二月十一日

向晚天黯黯夕陽頓失賴夜牀旋覺冷曉牖倍添明
枝裊竹多折梢垂松叵擎四望無點燼老眼幾眩睛

雪十二月十一日

梅花失却不須探白盡万株松檜杉佛戒雖無聽捉
寶任他碎玉著偏衫
晨齋寒徹被稜稜早起安禪病未能雖恐水仙遭凍
殺書窓亦喜勝燒燈
凍殺門前乞丐兒北風吹而太凄其因思苦樂因緣
事活火爐邊坐似尸（今朝寺外）外一乞兒凍死故言
聖瓦粉牆猶未厭窓前頻撒水精鹽老僧推戶餌寒

盡日武都靈雲開山五十九老苾芻淨嚴寄河州

錦部郡清水里地藏寺住持妙嚴近圓梧右

冠註即身成佛義絕筆頌三首十二月七日

自攀南嶽險心地漸安平三祕無垠垺（カギ）五輪任縱橫
長天掃雲淨皎月射窓明貽厥斯方策何惟金滿籬
不識己曼荼却求離桎枷一空元敞豁万有看森羅
浮沒非天獄覺迷無我他心源臻得日四海悉吾家
塊看顯露一三乘超出高過第十層燕雀寧知鴻鵠
志垂天況是太空鵬（ハヤ）

雪十二月十一日

向晚天黯黯夕陽頓失賴夜牀旋覺冷曉牖倍添明
枝裊竹多折梢垂松叵擎四望無點燼老眼幾眩睛

雪十二月十一日

梅花失却不須探白盡万株松檜杉佛戒雖無聽捉
寶任地碎玉著偏衫
晨齋寒徹被稜稜早起安禪病未能雖恐水仙遭凍
殺書窓亦喜勝燒燈
凍殺門前乞丐兒北風吹而太凄其因思苦樂因緣
事活火爐邊坐似尸（今朝寺外）外一乞兒凍死故言
聖瓦粉牆猶未厭窓前頻撒水精鹽老僧推戶餌寒

雀驚見松林變綠髯

立春雪 十二月廿四日

村老雖歡臘已征松房無事對茶瓶東君合送條風
至遠下六花數砌庭白虎通立春
和氣布何難北風午尚寒井泉凝凍合梅萼少應觀
童子爭奔巷老僧慵倚欄士峯望不見野闊雪漫
元祿十一戊寅年 行年六十歲

戊寅元旦

二十餘年吾道存春來不復祝三元山看野蔴陳低
几淡飯廳茶供世尊砌沼冰銷水清淺紙窓光暖日

黃昏市人無到禪扉靜

正月二日晚徹夜南風太暖

南吹夜來凡幾陳天公似惠老僧貧靜齋曉暖腰支
健六十還賢四十人

正月六日謁見大樹源内府綱吉公

風冷途泥猶未融年々此日謁源公駕輿恥後塞門
至龍象摩肩溢府中束帛羅綾堆几案片衣錦繡映
簾櫳吾因護法渠名利敬佛偷財趣不同

正月十日口占二首

一鉢一瓶茶一鍋功名勢利奈吾何居諸祇是疾如

雀驚見松林變綠髯

立春雪 十二月廿四日

村老雖歡臘已征松房無事對茶瓶東君合送條風
至遠下六花敷砌庭白虎通立春
和氣布何難北風午尚寒井泉凝凍合梅萼少應觀
童子爭奔巷老僧慵倚欄士峯望不見野闊雪漫々
元祿十一戊寅年 行年六十歲

戊寅元旦

二十餘年吾道存春來不復祝三元山看野蔴陳低
几淡飯廳茶供世尊砌沼冰銷水清淺紙窓光暖日

黃昏市人無到禪扉靜

正月二日晚徹夜南風太暖

南吹夜來凡幾陳天公似惠老僧貧靜齋曉暖腰支
健六十還賢四十人

正月六日謁見大樹源内府綱吉公

風冷途泥猶未融年々此日謁源公駕輿恥後塞門
至龍象摩肩溢府中束帛羅綾堆几案片衣錦繡映
簾櫳吾因護法渠名利敬佛偷財趣不同

正月十日口占二首

一鉢一瓶茶一鍋功名勢利奈吾何居諸祇是疾如

箭十日、韶光早、暮過

九十、青春十日、除庭隅、積雪盡、無餘、東風送暖、將寒去、且喜、後園長、美蔬

正月、中旬、寒暄未定

今茲、冷暝、兩三回、方沼、堅冰結、復開、數畝、林園風景、少寒、梢未放、十株、梅

春寒、鷺遲

獨向、天公、慙、不平、無聊、青帝、負、前盟、寺門何事、春來、晚庭、樹、黃鸝、未發聲

正月十三夜、雨口占

因喜、朝來和氣、生、遠、檐、點滴、未、曾、驚、看、經、不、厭、頭風、苦、獨、至、宵、闌、對、短檠

鎌倉在柄天神社上遷宮祭文

維元祿十一年、龍集、戊寅、二月二十五日、金剛乘佛子、某甲、欽、具、香、華、茶、藥、蔬、食、之、饌、奉、獻、大政、威德、天部類、諸神等、伏、惟、天、滿、大自在、天神者、普天、崇敬、之、靈神、菅家、祖宗、之、聖廟、本朝、文章、之、英傑、和國、輔佐、之、棟梁、也、博究、百家、之、書、洽通、九流、之、籍、此、故、早升、上公之位、咸掌、諸司之鈞、治教、休明、沐、其恩、之、者、滿國、筆翰、秀逸、仰、其風、之、族、溢、街、就、中、當、社、大神者、二

箭 十日、韶光早、暮過

九十、青春十日、除庭隅、積雪盡、無餘、東風送暖、將寒去、且喜、後園長、美蔬

正月、中旬、寒暄未定

今茲、冷、兩三回、方沼、堅冰結、復開、數畝、林園風景、少寒、梢未放、十株、梅

春寒、鷺遲

獨向、天公、慙、不平、無聊、青帝、負、前盟、寺門何事、春來、晚庭、樹、黃鸝、未發聲

正月十三夜、雨口占

因喜、朝來和氣、生、遠、檐、點滴、未、曾、驚、看、經、不、厭、頭風、苦、獨、至、宵、闌、對、短檠

鎌倉在柄天神社上遷宮祭文

維元祿十一年、龍集、戊寅、二月二十五日、金剛乘佛子、某甲、欽、具、香、華、茶、藥、蔬、食、之、饌、奉、獻、大政、威德、天部類、諸神等、伏、惟、天、滿、大自在、天神者、普天、崇敬、之、靈神、菅家、祖宗、之、聖廟、本朝、文章、之、英傑、和國、輔佐、之、棟梁、也、博究、百家、之、書、洽通、九流、之、籍、此、故、早升、上公之位、咸掌、諸司之鈞、治教、休明、沐、其恩、之、者、滿國、筆翰、秀逸、仰、其風、之、族、溢、街、就、中、當、社、大神者、二

位源君殊傾仰信累代武將繼作修營加旃台德相
公成土木之構嚴有元帥加丹青之光雖然星霜屢
遷風雪交冒屋甍朽損簷楹將傾而今內府殿下恩
旨特降多賜良本有司奉教送致美材是以輪奐之
功速成旬日丹雘之彩畢不多時遂使今日奉于神
靈移于本殿仰願大神垂慈愍手長興密乘廻擁護
眸常翺相府重乞天下靜謐四海無為一人安全万
姓娛樂尚享

龍猛大士贊偈應于坪井氏請 七月四日
大教支提鎖幾年斯人一闢普弘宣蒼生飽啜瑜伽

水遠至龍華億万千

弘法大師影贊應朽木氏植元公之求

塊看羊馬一三乘現證玄宗有所憑粉骨焚身何得

報至今正脉尚繩繩

元禄十二己卯年 行年六十一歲

早春臥病

寒濕交侵頻苦頭復加痰喘患增尤新年臥病何須
諱不禮三尊是我憂

病中口占 同日

塵情不措心俗客本商參藥鼎旋添炭地爐常擁衾

位源君殊傾仰信累代武將繼作修營加旃台德相
公成土木之構嚴有元帥加丹青之光雖然星霜屢
遷風雪交冒屋甍朽損簷楹將傾而今內府殿下恩

旨特降多賜良本有司奉教送致美材是以輪奐之
功速成旬日丹雘之彩畢不多時遂使今日奉于神
靈移于本殿仰願大神垂慈愍手長興密乘廻擁護
眸常翺相府重乞天下靜謐四海無為一人安全万
姓娛樂尚享

龍猛大士贊偈應于坪井氏請 七月四日
大教支提鎖幾年斯人一闢普弘宣蒼生飽啜瑜伽

水遠至龍華億万千

弘法大師影贊應朽木氏植元公之求

塊看羊馬一三乘現證玄宗有所憑粉骨焚身何得

報至今正脉尚繩繩

元禄十二己卯年 行年六十一歲

早春臥病

寒濕交侵頻苦頭復加痰喘患增尤新年臥病何須
諱不禮三尊是我憂

病中口占 同日

塵情不措心俗客本商參藥鼎旋添炭地爐常擁衾

法緣歲、弥夥、暮景日、相侵無、掃蚊蛇力、唯思起、密林

又用三紙字

兩重紙牖未全、溫紙帳加來、暖正存、賓客訪尋、不相見、棉衾紙服、眼昏昏

山内氏廣直以万治庚子歲三月二十一日而生、以故崇仰弘法大師、歲已久矣、元祿丁丑八月廿一日曉夢、上高野山、親炙高僧、諮決所疑、覺而謂為定、是大師也、則圖其像、兼記所見、夢魂了了、入蓮峯、忽遇高僧、情意濃、端坐結跏、挫魔外、安禪合掌、伏天龍、對觀爐火、焚煩業、不用著龜知

吉凶頭角稜々、信應貴、覺來掃素寫真容

正月六日病中作 此日疾風暴雨

歲歲今朝見、相君塗泥冰雪、不須論、審知真個病中、樂風雨不、鍊爐火、溫

今月初三若州羽賀寺主再實大德見來、訪敝廬之次、覽彼寺實錄及、敕書教策數十通、其實錄也、則陽光院之宸筆、虎踞龍臥、心魂飛揚、至不自勝、粵實公責、貧道生筆、其事、貧道生來不知、文翰固辭、不允、彊為、頌曰、八月二十一日、奇哉大聖、居神鳳屢、躊躇靈像、沒還、出瑞雲卷、復舒

法緣歲、弥夥、暮景日、相侵、無、掃蚊蛇力、唯思起、密林

又用三紙字

兩重紙牖未全、溫紙帳加來、暖正存、賓客訪尋、不相見、棉衾紙服、眼昏昏

山内氏廣直以万治庚子歲三月二十一日而生、以故崇仰弘法大師、歲已久矣、元祿丁丑八月廿一日曉夢、上高野山、親炙高僧、諮決所疑、覺而謂為定、是大師也、則圖其像、兼記所見、夢魂了了、入蓮峯、忽遇高僧、情意濃、端坐結跏、挫魔外、安禪合掌、伏天龍、對觀爐火、焚煩業、不用著龜知

吉凶頭角稜々、信應貴、覺來掃素寫真容

正月六日病中作 此日疾風暴雨

歲歲今朝見、相君塗泥冰雪、不須論、審知真個病中、樂風雨不、鍊爐火、溫

今月初三若州羽賀寺主再實大德見來、訪敝廬之次、覽彼寺實錄及、敕書教策數十通、其實錄也、則陽光院之宸筆、虎踞龍臥、心魂飛揚、至不自勝、粵實公責、貧道生筆、其事、貧道生來不知、文翰固辭、不允、彊為、頌曰、八月二十一日、奇哉大聖、居神鳳屢、躊躇靈像、沒還、出瑞雲卷、復舒

嘉名驚魏闕陳迹著圖書不意開瓊軸德光輝

武州豐島郡練馬村金乘院鉅鐘銘彼寺第十

求銘內田四郎兵衛施鐘

武豐島郡練馬之里有一福庭山曰如意万德寺名
林壑鍾美金乘院稱世傳秘軌時主者誰大德慧辯
修兼禪尸學富顯密搜扶三藏開廊五衍把塵踞獅
雲掃雲卷信士內田效誠竭力幻成九乳念震億國
字鐫總持理融空邑希傳法音蟬動飮德元祿十
二十年之吉

相州大住郡田原邨德石山道明寺銅鐘銘并序

米倉丹後守源昌忠法号德石道明其家嫡
昌明為報父恩於其弟昌仲之采地田原村
創建紺宇山名德石寺号道明蓋永世不使
忘祖業也而屬予寺而為末寺昌明索鐘銘
故余

關之左相模州大住之郡有一勝區大山背鎮以表
定心之無動士峯右峙而示智頂之崇顯前丹後太
守米倉昌忠素食采乎斯其所嘗奉持之觀音大士
威靈鉅多家嫡昌明追念所天之鴻德創梵宇于茲
地安彼寶像置僧施田使恒禮供以報罔極復鑄銅
鐘悟夫重昏因而責銘詞於予素菲學不堪操觚
固辭不允信虛馳毫銘曰

嘉名驚魏闕陳迹著圖書不意開瓊軸德光輝

武州豐島郡練馬村金乘院鉅鐘銘彼寺第十

求銘內田四郎兵衛施鐘

武豐島郡練馬之里有一福庭山曰如意万德寺名
林壑鍾美金乘院稱世傳秘軌時主者誰大德慧辯
修兼禪尸學富顯密搜扶三藏開廊五衍把塵踞獅
雲掃雲卷信士內田效誠竭力幻成九乳念震億國
字鐫總持理融空邑希傳法音蟬動飮德元祿十
二十年之吉

相州大住郡田原邨德石山道明寺銅鐘銘并序

米倉丹後守源昌忠法号德石道明其家嫡
昌明為報父恩於其弟昌仲之采地田原村
創建紺宇山名德石寺号道明蓋永世不使
忘祖業也而屬予寺而為末寺昌明索鐘銘
故余

關之左相模州大住之郡有一勝區大山背鎮以表
定心之無動士峯右峙而示智頂之崇顯前丹後太
守米倉昌忠素食采乎斯其所嘗奉持之觀音大士
威靈鉅多家嫡昌明追念所天之鴻德創梵宇于茲
地安彼寶像置僧施田使恒禮供以報罔極復鑄銅
鐘悟夫重昏因而責銘詞於予素菲學不堪操觚
固辭不允信虛馳毫銘曰

相之大住邨曰田原大嶽鎮坎士巔從坤ト食奧壤
創闢檀門奉開士像答家翁恩興不訾福傳無盡燈
瞿咽蘊藏毗尼轟乘晨梵夕誦山和谷應慧刃霜冽
定水潭澄念播清響警沈眠衆是氏巧範修弁得中
非絲非竹亦假亦空重開開豁法界圓通祝我皇祚
匪密巨億武運貞固金石罔極妙音妙趣周諸有識
恢恢鴻烈孰算孰測

城州愛岳寶藏院主囑像匠法橋運長使雕造
不動如來使金剛愛染王兩尊容於合子是為
長帶於身也非唯莊飾極美抑亦絕代之妙手

也而使予開光焉予緇林朽樵密海爛屍無足
應信雖介逼請巨避強應其需因申一偈吐露
野意云

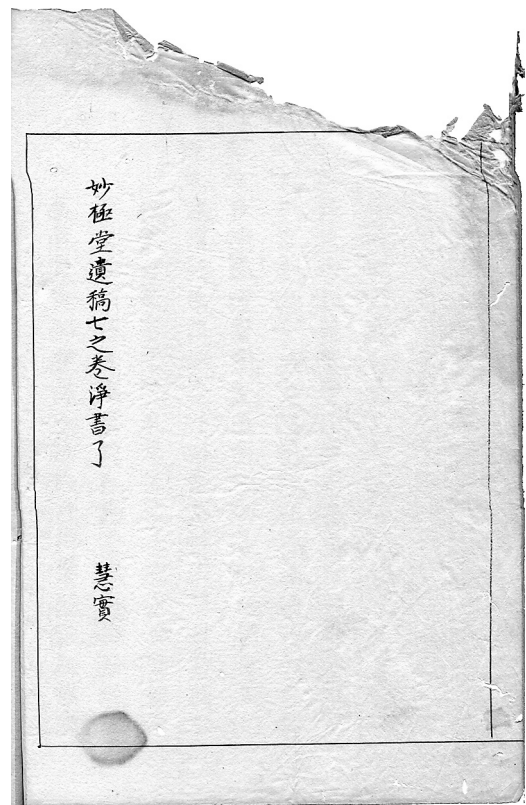
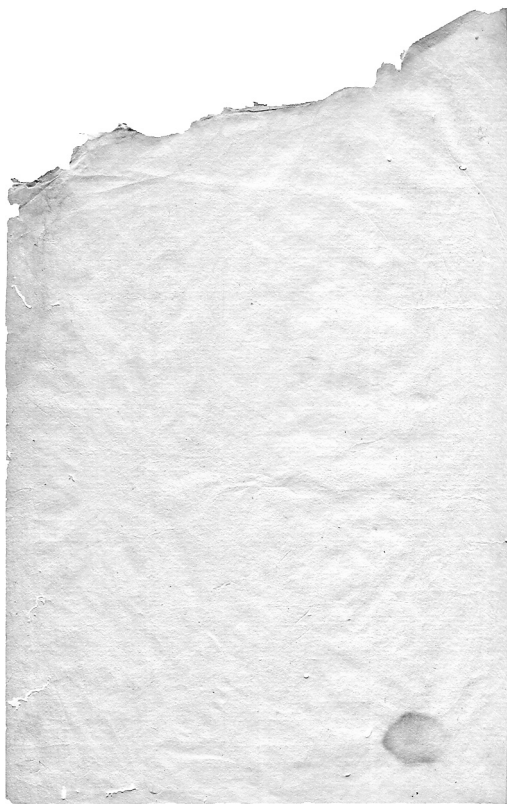
空量寶瓶湧万珍吹毛利劍奮威神大悲極愛雖殊
迹本是毗盧一法身

相ノ大住邨ヲ曰田原ト大嶽鎮坎ニ士巔聳レユ坤ニト食シテ奧壤ヲ
創メテ闢ク檀門ヲ奉シテ開士ノ像ヲ答フ家翁ノ恩興ニ不訾ノ福ヲ傳ヘ無盡ノ燈ヲ
瞿ケツ蘊藏ニ毗尼ノ轟乗ヲ晨梵夕誦山和谷應ス慧刃霜冽
定水潭澄メリ念ヲ播ク清響ヲ警シメント沈眠ノ衆ヲ是氏ノ巧範ニ修シテ弁得レタリ中
非ス絲非ス竹亦ハ假亦ハ空重開開豁シテ法界圓ニ通ス祝シ我カ皇祚
匪密巨億ノ武運貞固ニシテ金石罔極ニ妙音妙趣周ニ諸有識ニ
恢恢タル鴻烈孰レカ算ヘ孰レカ測ラン

城州愛岳寶藏院主囑ニシテ像匠法橋運長ニ使レ雕造
不動如來使金剛愛染王ノ兩尊容ヲ於合子ニ是為三
長ヘニ帶ニセンカ於身ニ也非ニ唯ニ莊飾極ニ美抑亦絶代ノ妙手

也而使予ヲ開光ニセ予緇林ノ朽樵密海ノ爛屍無レ足
レ應レ信ニ雖レ介ト逼請巨レ避ク強テ應メ其需メ因デ申ヘテ一偈ヲ吐露スト
野意云

空量ノ寶瓶湧シ万珍ヲ吹毛ノ利劍奮レ威神ヲ大悲極愛雖レ殊
レ迹ヲ本ニ是ニ毘盧一法身



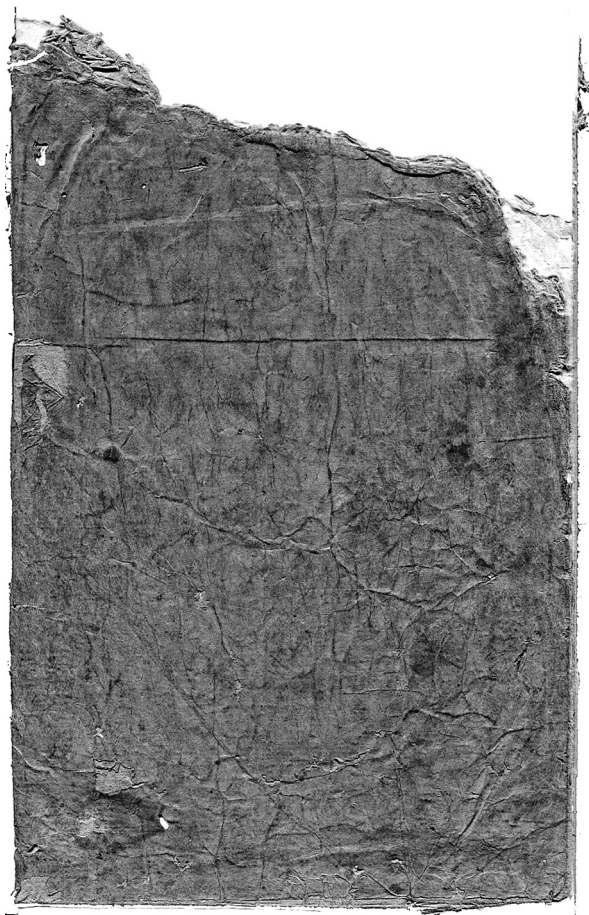
妙極堂遺稿七之卷淨書了

慧実

(白丁)

「⑦裏表紙見返

「⑦54ウ



「⑦裏表紙

(てらつ まりえ

生活機構研究科生活文化研究専攻修了生)
(せきぐち しずお 歴史文化学科)